

不正の温床＝政務活動費の廃止を

このまま  
では

大宮が危ない



無所属・無党派

吉田一郎  
よしだ いちろう

さいたま市議員  
「無所属」

# このままでは 大宮が危ない

2001年に大宮市と与野市、浦和市が合併して  
さいたま市が成立してから22年  
私たちの街・大宮にとって  
メリットはあったらうか？

## 予算格差が続いた結果、発展する浦和と衰退する大宮

合併以来、浦和駅周辺は発展が続いています。湘南新宿ラインが浦和駅に停車するようになり、東口にはパルコ、西口にはアトレなど新しいデパートのオープンが相次いでいます。

浦和がこれだけ賑わったのは、さいたま市が予算を集中投入したからです。湘南新宿ライン停車のための立体高架化やホーム新設などに投じた税金475億円を加えると、さいたま市は浦和駅周辺の再開発に1000億円以上の予算を投じています。

中央図書館や市民活動サポートセンター、国際交流センターなど、市内に1つしかない中核的な公共施設を浦和駅東口に集中して建設し、浦和コミュニティセンターも開設。市民の文化・交流の中心地になっています。17年には子ども総合センターが浦和区に設置されました。

一方で大宮駅周辺は放置されています。東口では大型店の撤退が相次ぎ、パチンコ屋になりました。地元商店も呑み屋に変わり、東口全体の「南銀化」が進んでいます。買い物客が減少して、銀座通りの歩行者は10年間で3割減少、駅前通りは7割も減りました。

公共施設は充実するどころか、統廃合が進められています。清水市政は大宮区役所と大宮図書館を統廃合して、19年5月に街外れに移転。図書館の面積は3割も縮小しました。

さいたま市は、かつて大宮市が大宮市民の税金で購入した一等地を、次々と売り払おうとしています。

大宮市が市役所の建設予定として107億円で購入した富士重工跡地の一部や下町庁舎は売却され、240億円で購入した西口の鉄道病院跡地（市宮桜木駐車場）も、清水市長は民間企業に69億円で叩き売ろうとしました。私が22年6月議会で徹底追及し断念させましたが、企業に年間1億3500万円で半永久的に貸す方向で準備を進めています。

旧大宮区役所の跡地も市は「東日本の交流拠点として活用できなければ、売却も否定しない」と言い、旧大宮図書館の建物は戸田建設に貸し出され店舗とオフィス（Bibli）になりました。

かつて大宮市民の血税で購入した一等地を次々と売り払って浦和の開発費に充て、浦和に「市民のための公共施設」を、大宮には「企業のための施設」を集中させるのが、さいたま市の政策です。

合併以降の都市開発予算総額

	市街地再開発	土地区画整理	道路整備
大宮	222億6049万円	894億0622万円	260億6437万円
浦和	602億1173万円	953億8711万円	360億9625万円
与野	21億7000万円	154億0382万円	38億0463万円
岩槻	0	260億4643万円	98億5045万円

他に浦和駅立体高架化事業に474億7500万円

## 「副都心」のはずが放置される日進・宮原

さいたま市は中心部の開発だけでなく、郊外の整備も一貫して「浦和優先」の政策を続けています。例えば地域の中核となる複合公共施設は、浦和4か所に対して大宮はプラザノースだけです。

4つの副都心のうち、武蔵浦和には高層ビルが建ち並び、田畑が広がっていた浦和美園は住宅街とショッピングセンターに生まれ変わりましたが、日進・宮原の都市基盤整備予算は1ヶタ少なく、ステラタウンの開発と日進駅の橋上化が行われたくらいです。

ステラタウンだけ道路を整備しても接続する道は旧態依然のままで休日には渋滞が常態化。宮原駅西口で歩道があるのは駅前通りだけで、日進駅周辺はすれ違うのもやっとな道ばかり。土呂駅は市内のJRの駅で唯一エスカレーターがありません。「副都心」とは名ばかりの現状を変えなくては、住み良い街になりません。



■大宮発展のために北口開設と「大宮新都心構想」を提案

さいたま市は大宮駅周辺の整備を打ち出していますが、一向に進展がありません。相川前市長の大宮駅周辺地域戦略ビジョンは、「おもてなし、あふれるまち」という、まるで田舎の温泉観光地のようなキャッチフレーズを決めただけで終わりました。

清水市長は大宮駅グランドセントラルステーション化構想を策定し、東口一帯の大規模な再開発を目指しましたが、銀座通り沿いにはベンシルビルの建設が相次いで、地権者らは「再開発に協力するつもりはない」という意思を明確にしています。



そこで私が提案しているのが、「大宮駅北口開設」と「大宮新都心構想」です。大宮駅と大栄橋との間の線路上に、新宿駅南口のような人工地盤を作り、大栄橋から直接入れる北口と北口広場を開設して、それを取り囲んでデパート、オフィス、ホテルなど新しい街を建設するのです。

旧中山道や国道17号を北から、旧16号を東西から来るバスやタクシーを北口発着にすれば、駅周辺の交通渋滞の解消になり、東口、西口に新たな玄関口である北口が加わることで、中心街の回遊性も向上します。



そして大栄橋から北へ1km以上続く鉄道工場を東大宮の車庫へ移転し、跡地を「大宮新都心」として市とJRで共同開発する構想も提案しました。線路も鉄道工場も地権者はJRです。市は東口地権者を抜きにJRとだけで協議を進め、東日本全域と新幹線で結ばれた地の利を生かし、大宮飛躍のための大胆な街づくりを進めるべきです。

■財布をきっちり分けなくては、大宮に未来はない

浦和に予算が一極集中するのを防ぐためには、合併前の旧4市ごとに財布を分け、大宮の税収は大宮で使う仕組みが必要です。そして政令指定都市になって新たに増えた財源を、新市役所建設のようなプロジェクトや、旧4市間の格差是正に使えば良いのです。

さいたま市が抱える市債(借金)4825億円は、合併以来これまで投じた予算額に応じて、旧4市で分割して返済に責任を負うべきです。日本はこれから高齢化が進み、本格的な人口減少社会を迎えます。さいたま市が浦和の開発や公共施設の建設に多額の予算を投じ、続いて無謀な地下鉄建設のために岩槻や浦和美園の開発を推し進め、将来「さて、これから大宮の番だ」となった時、すでに財源はなくなり、大宮は朽ち果てるままになりかねません。吉田一郎は「このままでは大宮が危ない」という危機感を持って、ふるさと大宮の発展のために、全力で取り組みます！



■許せない！「人の命も浦和優先」

かつて大宮市は、大宮医師会市民病院で内科と小児科の24時間診療を実施するなど、全国的にも充実した医療体制を誇っていました。

しかし旧浦和市長だった相川前市長は「浦和西部にも公的な総合病院を」という浦和市の計画をもとに、09年に大宮医師会市民病院を閉鎖し市民医療センターとして移転。私の追及で小児科のオールナイト診療は大宮総合病院(現:さいたま北部医療センター)で継続できましたが、内科は中止になったままです。

市民の税金421億円をかけて20年に建替えた市立病院へ行くバスは、浦和からは1日289本出ているのに大宮からは30本だけで、大宮からの患者は浦和の5分の1以下に過ぎません。

さらにさいたま市は、浦和美園に800床の順天堂大学病院を誘致するために、土地の無償提供に加え建物や医療機器、救急医療への補助など莫大な予算をつぎ込もうとしています。

高齢化社会を迎え、夜中に具合が悪くなった時にいつでも診てもらえる病院の存在は重要です。

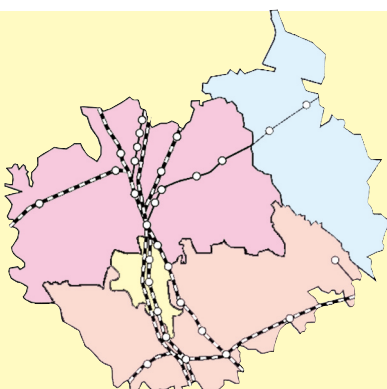
私はさいたま北部医療センターでの内科オールナイト診療の復活や、外科の休日診療の実施に引き続き取り組むとともに、北区や見沼区から市立病院へのバス路線の実現を目指して頑張ります。

市立病院の利用者数(2021年度)

	外来	入院	救急
大宮	33,357	23,261	2,689
浦和	183,808	108,946	11,307
与野	5,074	3,425	407
岩槻	9,202	7,499	921
市外	22,792	22,320	2,318

4つの副都心の合併以来の都市基盤整備予算

地区	総額
日進宮原	32億0914万円
武蔵浦和	345億1563万円
浦和美園	534億7368万円
岩槻	148億2396万円



旧4市に大幅な財源と権限を移し  
大宮の地の利を生かした  
大胆な開発を進め  
大宮の税収を増やすことで  
市民生活の充実を図るべきだ

# 市庁舎が新都心に建つだけでは「浦和優先」は終わらない

# さいたま新都心への市役所移転

## ■市役所がある場所に予算や公共施設は集中する

世界ほとんどの国で「首都」には多くの施設が集まり、その国の中心地として優先的に整備されています。

さいたま市が都市開発や公共施設の整備予算を浦和に集中投入しているのは、市役所が浦和にあることで、「さいたま市の中心は浦和」が既成事実と化したためです。

大宮市と与野市、浦和市が合併にあたって調印した「合併協定書」では、市役所は旧3市の境に位置する「さいたま新都心周辺」と明記されています。

しかし、合併したその日に新都心に「一夜城」のように市役所が建つはずはありません。そこで市役所建設までの「当分の間」浦和の市役所を使用することになったのです。

旧浦和市長だった相川前市長は浦和から市役所を動かすつもりはなく、「新都心最後の空き地」と言われた第8-1A街区にさいたまタワーを誘致したり、サッカープラザの建設を計画したりで、浦和の市役所を永久化することを目論みました。

その一方で、「公共施設は一極集中の方が便利だ」と公言する大学教授らを集めて「公共施設の適正配置方針」を策定し、浦和での集中建設を推進。浦和中心・浦和優先で浦和のことしか考えず、大宮を植民地支配するかのような政策がまかり通って来ました。

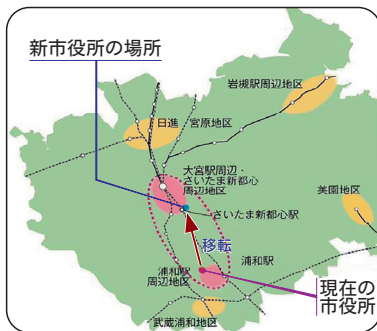
09年に就任した清水市長も、浦和住民の反発を恐れて市役所を動かさず、第8-1A街区は日赤病院の移転先になりました。

## ■「新都心にまだ土地はある」新たな提案で流れが変わった

議会でも、大宮の議員の多くは同じ政党や会派の浦和の議員たちに遠慮して市役所問題を取り上げませんでした。07年に初当選した「完全無所属」の私は、議会が開かれるたびに市役所移転に言及し、17年には新都心駅東口（大宮区北袋町）の長距離バスターミナルの上に市役所を建てる「吉田プロジェクト」を提案しました。

「新都心にはまだ市役所を建てられる場所がある」とハッキリしたことによって議会の流れも変わり、自民党から大宮派が分裂。19年に発足した市庁舎整備等検討特別委員会では、私は移転賛成派の「切り込み隊長」として、抵抗する浦和の議員たちと毎回論戦を繰り返して、22年4月に開かれた臨時議会で私が提案した新都心バスターミナルへの市役所移転が圧倒的多数で可決されました。

## ■浦和の市役所を売却すれば移転費用は賄える



市役所の移転で心配なのが費用の問題です。新都心のバスターミナルは市有地なので、新たに用地買収は必要ありませんが、建物の建築費は206～217億円と見積られています。

市は96億円の基金を積み立てていますが、私は21年2月議会で、浦和の市役所の土地を老朽化している県庁の建替え用地として売却することを提案。

市に「いくらで売れるのか」を調べさせたところ、3月の市庁舎特別委では「1平方メートルあたり40万円、消防署部分を除き総額116億円」と発表しました。

吉田一郎 積立金と土地の売却収入で、建設費はほぼ賄えるのか。都市経営戦略本部副理事 数字ではそうなりません。

新都心への市役所移転は、新たな財政負担なしにタダで実現できるのです。実際の建築までには資材や人件費が値上がりする可能性はありますが、合併振興基金40億円を加えれば対応できます。

## ■移転は決まっても、いつ移転するかは決まっていない!?

「浦和優先」の相川前市長と「浦和票」を気にした清水市長によって20年以上引き延ばされた新都心への市役所移転ですが、実現まではまだ油断できません。

市議会で可決された市役所移転案の施行期日（移転日）は「規則で定める日」としか書かれていません。規則は市長が自由に決めたり変えることができ、議会の承認は不要です。

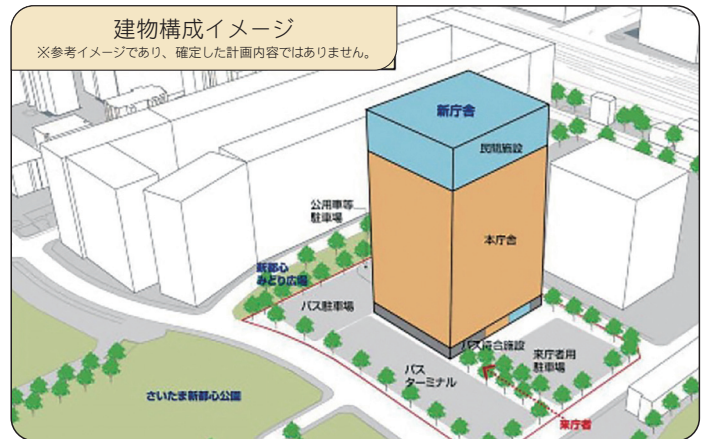
清水市長は「31年を目途に移転する」と言っていますが、市長の任期は25年までです。もし「市役所はずっと浦和」と主張する人が次の市長に当選したら、新都心への市役所移転は無期延期することも可能なのです。

浦和の市役所の建物の法的耐用年数は26年までです。清水市長は現在の任期中に責任を持って着工まで行うべきです。

そして新都心に市役所だけが移っても、これまでの「浦和中心」のまちづくりが続いては意味がありません。浦和の住民をなだめるために、今後も浦和に予算が集中する危険性があります。

私は浦和の市役所に併設されている浦和区役所を、地元住民にとって便利な浦和駅前のコムーレに移し、コムーレにある中央図書館や市民活動サポートセンター、国際交流センターなど中核的な公共施設を、新都心の新市役所に移すことを提案しています。

さいたま市が名実ともに新都心を中心とする構造となり、大宮と浦和が対等な都市になるように、私はこれまで以上に監視や追及、提案を続けていきます。



20年以上も引き延ばされた「約束」  
場所や費用調達で大胆な提案を続け  
議会ですべて移転が正式決定  
新都心を中心に大宮と浦和が対等に  
なるまで今後も追及と提案を続ける

●「大宮市の分離独立は可能」と市が答弁  
合併協定書が守られないのなら、合併を解消して、大宮市を復活すべきです。  
私が07年12月議会で「大宮市の分離独立は法的に可能か」を質問したところ、市の答弁は「地方自治法第7条の規定により可能で、横須賀から分離独立した逗子の例などがあり、独立する地域だけで住民投票を行った」でした。実際に戦後70か所で分離独立が行われています。

# 「市役所は新都心」の約束を守れ!

## 14年間にわたる粘り強い追及と提案

**2008年6月** ▼合併協定書に調印した元大宮市長の抗議文を読み上げ、合併協定書に基づいた新市役所の審議会はいつ設置されるのかを追及。  
▼新都心第8-1A街区にサッカープラザを建てる相川市長の計画に対し、新都心で市役所を建てられる場所は他にあるのかを追及。政策局長は「用地の確保は大変難しい」と答弁。

**12月** ▼「市民ニーズが変化した」と区役所建替を優先しようとした副市長の発言を追及。

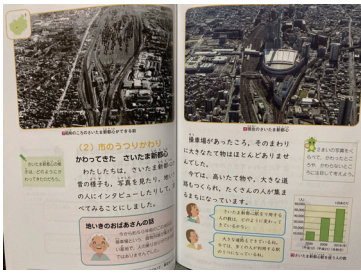
**2009年6月**

▼新たに就任した清水市長に、合併協定書の履行義務と審議会を設置するよう大宮市旗を手に追及。



**2010年2月** ▼新市役所の建設時期を質問し、政策局長が「15年後 (= 2025年) に着手 (基本設計に入る) を想定」と答弁。

**9月** ▼新入職員の研修マニュアルで、合併協定書の紹介から「将来の市役所の位置は新都心」という部分が削除されていたことを追及。▼新都心のことをほとんど教えない小学生の社会科副読本の内容を追及し、翌年度から新都心の紹介が掲載に。



紹介が掲載に。

**2011年6月** ▼第8-1A街区に日赤病院を移転する計画に、新都心で他に市役所を建てられる場所はあるのかを追及。政策局長は「どこかにある」と答弁。

**9月** ▼合併協定書では「当面の間」と書かれている浦和の市役所は、本庁舎ではなく「仮庁舎」にすべきと提案。▼第8-1A街区に建てる計画だったオフィスビルの半分以上を市が賃借し、市役所を移転する構想を清水市長が拒否したことを本会議で暴露。

**2012年2月** ▼合併協定書に明記された審議会の設置を10年以上行っていないことについて清水市長に謝罪を要求。▼全会派共同提出の大宮・与野・岩槻の公共施設再編を求める決議に、「市役所は浦和のまま放置か」と反対。

**6月** ▼ようやく設置された審議会について、清水市長が「市庁舎は新都心周辺に限定しない」と発言したことを追及。「合併協定書の趣旨を踏まえる」と答弁させる。

**11月** ▼審議会設置から半年近く経っても委員が選任されていないことを追及。「年内開催の準備を進める」と答弁させる。▼浦和の市役所の耐用年数を追及。財政局長は耐用年数を10年伸ばし「2035年まで」と言い出す。

**2015年6月** ▼浦和の市役所耐震化で新たな建物の耐用年数は20~40年と言うので「それまで浦和に市役所を置き続けるつもりか」と追及。▼合併協定書に市役所は「新都心周辺」と明記されている約束をどう思うのか追及。都市戦略本部長に「その趣旨は尊重する」と答弁させる。

**2016年9月** ▼審議会の答申が4年経っても出ないことを追及。他市の市庁舎審議会では2~3年で出ていることを明らかにさせる。

**10月** ▼浦和の市役所の耐用年数は「2036年まで」と言い出した財政局長を追及し、法に基づいた耐用年数は2026年だと明言させる。

**2017年2月** ▼「新都心駅東口に計画中のバスターミナルの上に市役所建設は可能か」「大宮区でも問題ないか」を質問したところ、市は否定せず。▼新市役所建設に着手する時期を質問し「2023年を目途に考えている」と答弁させる。

**9月** ▼市が新都心駅東口にバスターミナル用地を購入。この用地に市役所を建設する『吉田プロジェクト』を提案。都市戦略本部長が「審議会でも十分論議してもらい判断する」と答弁したところ、浦和の議員が激しいヤジを飛ばして撤回。他に熊谷裕人議員 (民進・大宮区) が屠畜場に市役所を建てる「くまがい構想」、中島隆一議員 (自民真政・中央区) は中央区役所を市役所に建替える「中島プラン」を発表。

**2018年6月** ▼審議会が5月末に出した「市役所は新都心駅から半径800m以内」の答申に、バスターミナル用地は含まれるか質問。都市戦略本部長に「含まれる」と確認させる。答申の「スピード感をもって整備方針の検討を」の具体的な意味を確認し「『できるだけ早く』の意味だと理解している」と認めさせる。▼「明治2年に浦和県が設置されて以来、浦和は行政の中心」と言い出した自民浦和派のドンに、「浦和県はもともと大宮県だった」と反論。

**12月** ▼9月議会で浦和の市役所の耐用年数を「2036年まで」「その後も一定期間使用することになる」と発言した都市戦略本部長を追及。

**2019年6月**

▼新都心バスターミナルは切符売り場もなく、大部分の高速バスは引き続き大宮駅に発着することが判明。「張りぼてターミナルより堂々と市役所を建てるべき」と批判。



**9月** ▼各会派2人+オブザーバーの私で発足した市政重要課題検討協議会で「合併協定書と審議会答申に基づく新都心への市庁舎移転」について話し合うよう主張し、10月から市庁舎特別委が発足して私も正式メンバーに。

**12月** ▼市が新都心の市役所移転先で①屠畜場②コクーン2・3③バスターミナルの3候補地を発表。コストは①と②が430億円で、③は217億円で済むことを確認。

**2020年2月** ▼市庁舎特別委で浦和の市役所の跡地利用について質問したところ、浦和の議員が妨害。▼市の今後10年間の総合振興計画案で、浦和地区の目指す方向性に「行政機能を担う」と明記されていることを追及。

**12月** ▼浦和の市役所を法的耐用年数の2026年から10年間延命すると33億円の費用がかかると市試算。「古い建物は光熱費や水道代が余分にかかる額も試算すべきだ」と提案。

**2021年2月** ▼清水市長が2031年を目途に新都心バスターミナルへの市役所移転の方針を

宣言。私は96億円の基金で不足する建設費は、浦和の市役所を県庁の建替え用地として売却して調達することを提案。▼新都心周辺の道路整備として南大通東線 (吉敷町ガード) の東への延伸や、大宮・新都心と東西を結ぶ高速道路「核都市広域幹線道路」の早期整備を提案。

**3月** ▼市庁舎特別委で浦和の市役所の土地がいくらで売れるのかを市に調べさせ、1平方メートルあたり40万円、消防署部分を除き総額116億円と判明。基金と合わせれば移転費用が賄えることを市も確認。▼浦和の市役所に併設している浦和区役所を浦和駅前のコムナーレに移転し、中央図書館や市民活動サポートセンターなどコムナーレの公共施設を新市役所へ移転して、新都心中心のまちづくりを提案。

**6月** ▼市庁舎特別委で自民浦和派が浦和の市役所は「建設から80年 (= 2056年) まで使えるはずだ」と主張。「移転理由は老朽化ではなく合併協定書の履行」と反論し市も認める。

**7月** ▼自民浦和派が「コロナ渦のため市役所移転は慎重に」という決議案を提出。移転賛成派を代表して「浦和の市役所を売却すれば市民負担ゼロで移転できる」と反論し否決。

**10月** ▼市庁舎特別委で北区や西区・見沼区・桜区・緑区から新都心までバス路線を延長し、交通手段を確保するよう提案。市も「非常に大事な問題なのでしっかり検討する」と応じる。

**12月** ▼浦和区自治会連合会が市役所移転の再検討を求める要望書を提出したことに対し、審議会では同連合会の代表が「市役所は浦和に」と主張しなかったことを暴露。市に「移転を理解して頂けるよう説明する」と約束させる。▼市庁舎特別委で、市役所移転が議会で否決されても、地方自治法の規定により「浦和の市役所の場所に物置1つだけ残しておけば、実際の市役所機能は新都心に移しても法的に可能」などを確認。▼浦和の議員が提出した「市役所移転の白紙撤回を求める請願」に対し、移転賛成派を代表して「どうしても浦和に市役所を残したければ、浦和市が分離独立すればいい」と反論し、請願は否決に。

**2022年4月** ▼浦和の市役所を建物ごと貸せば月1億2000万円の収入が得られると判明。県庁の建替え用地として売却する他に、一時的に県に賃貸した後に民間企業へ売却する選択肢を提案。市は「検討の余地がある」。▼臨時議会で新都心への市役所移転を審議。施行期日が明記されていないと追及するも、『吉田プロジェクト』を採用しバスターミナルを移転先としたことを評価して私も賛成し、賛成48、反対9、退席3の圧倒的多数で可決。



# 総費用3000億円超 財政破綻を招く無謀な

# 地下鉄建設にNO!

## ■建設前に782億円を投じて黒字になる見通しなし

清水市長は埼玉高速鉄道（SR）を、浦和美園から岩槻まで7.3km 延伸しようとしています。建設費は車両購入費を含め860億円と算出していましたが、沿線開発を含めると3000億円を超え、市民1人あたり25万円、4人家族なら100万円以上の負担になります。

地下鉄建設で心配なのが、採算です。新たに地下鉄を建設するには、国の採算基準（開通後30年以内に黒字転換）を満たす必要があります。市が専門家を集めて繰り返し行った調査では、地下鉄の乗客は1日2万3100人で、B/C（費用対効果、1以上が黒字）は0.7～0.9で、いずれも国の基準は満たせないという結果でした。

市が浦和美園～岩槻で年間3000万円をかけて走らせていた快速バスは1日70人の乗客しかなく、19年3月には廃止になりました。バスすら廃止になる区間で、地下鉄の経営は成り立ちません。

清水市政は12年度に「浦和美園～岩槻地域成長・発展プラン」を策定し、予算を集中投入して沿線開発やハコモノ建設やイベント開催を推進。21年度までに782億円を投じました。

その結果、浦和美園の人口は1万7800人増えましたが、浦和美園の人口が増えても乗客は東京へ向かい、岩槻への地下鉄利用者は増えません。岩槻駅周辺の人口17年度から4年間で1万1700人のまま増えておらず、目標の1万5600人を大きく下回っています。

浦和美園や岩槻に巨額な血税を投じて、地下鉄の採算性向上のためにはほとんど成果を上げていません。

## ■採算性や建設費、沿線開発費すべて未定なのに建設を強行!?

それでも清水市長は、浦和美園と岩槻の間に新たな駅を設置して開発を行えば、B/Cが1.1になって採算が取れるかも知れないと、23年度には埼玉高速鉄道に地下鉄建設を国へ申請してもらうよう要請すると掲げています。

しかしコロナが一段落した後も、テレワークの普及で岩槻駅をはじめ東武野田線の市内各駅の乗降者数は2割減少しています。

一方、円安やウクライナの戦争の影響で、世界的に建築資材の価格が高騰しています。市がこれまで試算していた860億円では建設費が足りないのは確実です。そこで私は22年12月議会で、採算性や建設費の新たな見直しについて問いました。

- 吉田一郎 建設費や市の負担額はいくらか。  
真々田都市戦略本部長 建設費は精査を行い、負担割合は協議中。  
吉田一郎 埼玉高速鉄道は第三セクターだが、市が負担金や補助金や出資金や貸付金を出すわけか。  
真々田都市戦略本部長 現状では詳細について詰めていない。  
吉田一郎 中間駅の区画整理や公共施設はいくらかかるのか。  
真々田都市戦略本部長 街づくり方針の年度内策定をめざし、それを踏まえて規模や土地利用の検討を進め、来年度以降算定する。  
吉田一郎 野田線の乗客減少を織り込んだ採算性調査をやるのか。  
真々田都市戦略本部長 コロナの影響も鑑みて試算を行っている。  
吉田一郎 採算が合わない結果が出たら建設は断念するのか。  
真々田都市戦略本部長 本市にとって大変重要な事業なので、決して諦めることなく可能性を追求していくことを考えている。  
吉田一郎 地下鉄や中間駅建設の負担額や採算性の結果が出てから、住民投票を実施して決めるべきだ。  
真々田都市戦略本部長 住民投票は現在のところ考えていない。

なに1つははっきりした数字を出せないまま、市民の声も聴かずに建設を強行しようとする清水市政の姿勢は危険です!

## ■「吉田プラン」が現実となり、地下鉄はもういない

岩槻と東京都心を市がほとんどお金を出さずに1本で結ぶ方法があります。野田線と伊勢崎線を直通運転し、さらに春日部に来ている地下鉄日比谷線や半蔵門線と乗り入れる「吉田プラン」です。

岩槻だけでなく大和田、七里や東岩槻も東京都心まで乗換えなしで行け、大宮と越谷、草加が1本で結ばれるメリットもあります。

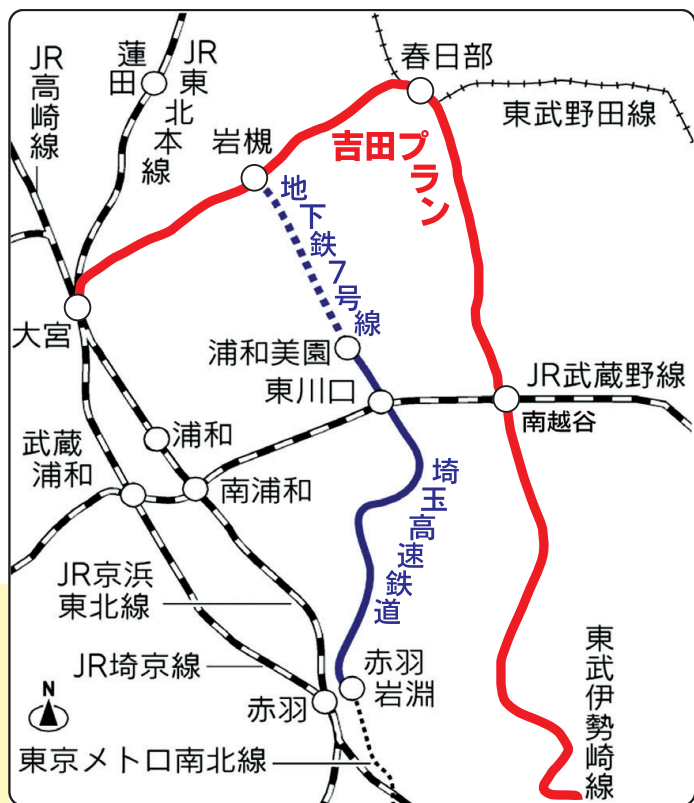
かつて清水市長は12年9月議会で、「17年度に岩槻への地下鉄建設に着手する」と宣言しました。当時さいたま市議会で建設に反対していたのは私1人だけでした。

そこで私は13年の市長選に「吉田プラン」の実現を掲げて出馬し、その内容が全国的に報道された結果、東武鉄道は翌14年の中期経営計画で、野田線と伊勢崎線の直通運転と大宮～春日部の急行運転を発表。清水市政に17年度の建設着手を無期延期させました。

実際に16年3月から野田線には急行が走り、17年4月には浅草から岩槻経由で大宮への通勤特急「アーバンパークライナー」が走り始めています。20年度に着工した春日部駅の立体高架化では、「野田線と伊勢崎線の直通運転を強化したい」という東武の強い要望で設計を変更し、野田線ホームの増設が決定。日比谷線の車両は20年春までに野田線と同じ規格（4ドア20メートル車）に交換されました。

「吉田プラン」が着々と実行に移されたことで、かつて私以外の議員はすべて地下鉄建設に賛成していた市議会が右も左もぐらつき、共産党は「きっぱり断念すべき」と方針転換しました。

無謀な地下鉄建設を断念させるまで、私は闘い続けます!



既存路線を活用し、建設費は不要  
たった1人で提案した「吉田プラン」が  
鉄道会社を動かし、本格的に実現へ  
赤字の地下鉄建設を中止に追い込むぞ

# もういない！ 赤字垂れ流しのハコモノと

# 10億円規模の大イベント

## ■来館者は予想の1/4で経費は2倍に！盆栽美術館

「無駄なハコモノはもういない！」を掲げて就任したはずの清水市長は、赤字垂れ流しのハコモノ作りに熱中しています。

10億3405万円の建設費をかけて2010年にオープンした大宮盆栽美術館は、自民・公明・民主・共産がこぞって建設に賛成し、反対したのは無所属議員だけでした。建設前は「新たな観光客が年間15～20万人増える」という説明でしたが、学校の社会科見学などを除くとコロナ前でも年間4～5万人の来館者しかありません。

「年間9000万円」と言っていた経費は2倍に膨らみ、赤字は毎年1.5億円～1.9億円で、累積17億9182万円に達しています。

## ■展示品に「岩槻人形」はほとんどない！岩槻人形博物館

清水市長は懲りずに42億3000万円をかけて岩槻人形博物館を建設し20年にオープン。21年度は1億9872万円の赤字を出しました。

市は建設目的を「岩槻の人形文化の振興のため」と言いながら、展示品として用意した5000点の人形には「岩槻の人形」と確認されたものは10点しかなく、海外の人形が多数含まれています。これに加えて2億8000万円かけて「2つ目の人形博物館」であるにぎわい交流館も建設。さらに清水市長は12億円で購入した土地に岩槻城の復元を計画し、17年に「全庁的組織」を立ち上げました

城は観光の目玉になりますが、それはシンボルとなる天守閣がある場合で、岩槻城は木造平屋建てだったので復元しても観光客は呼べません。そこで市は岩槻城を「3つ目の人形博物館」にして、「子どもたちがお城で鎧兜を着て、流し雛や人形供養のワークショップを行う」と言い出しました。

私は議会で「バカ殿ご乱心だ」と徹底批判し、岩槻城復元はウヤマヤになりましたが、岩槻への地下鉄建設を推進するために、赤字ハコモノに加えて城まで建てようとは呆れるばかりです。

## ■大型イベント開催で地元の経済効果はマイナス？

「ハコモノ建設」に続いて清水市長が熱中しているのが、大規模イベントの開催です。

秋にクリテリウム＝自転車レースや国際マラソンを開催して、市は19年度に2つの大会で5億6490万円を費やし、クリテリウムを主催

する外郭団体に5億4113万円、イベントの連携事業に6348万円の補助金を出すなど合計で12億円近い税金を使いました。

清水市政はクリテリウムの市内の経済波及効果（企業や商店の売上増）は約9億円、国際マラソンは14億7691万円で、「イベント開催は効果が大きい」と宣伝していました。

しかし市が開催日に新都心周辺115店舗の売上げを調査したところ、クリテリウムは「普段より多い」が27%に対し、「少ない」が28%、国際マラソンでは「普段より多い」が19%に対し、「少ない」が34%で、周辺の交通規制や混雑を避けた来客減が判明しています。

JRの運賃収入が増えたりイベント会社や警備会社が潤っても、地元商店の売上げが減って税収が減るのでは、一体何のために巨額の予算を投じてイベントを開催するのかわかりません。国際マラソンは坂があって記録が出にくいとプロ選手に不評で、22年度から市民向けのランフェスに変更されました。

## ■市長の趣味としか言えない芸術祭「バカ殿まつり」に10億円

16年秋に芸術祭・トリエンナーレが開催されました。市は当初「何億円という金額はかからない」と説明していましたが、開催費用は人件費を含めると10億2162万円に膨れ上がりました。自民・公明・民主・共産は「文化芸術都市にふさわしい」と称賛し、反対していたのは私ともう1人の無所属議員だけでした。

しかし15年12月議会で私の追及で、2億1386万円かけて開催したプレイベントの来場者が、芸術家の友人も含めて1日1人しかいなかった日があったことが判明すると、議会の空気は一変。「過労死ラインの2倍を超えた担当職員の残業」「たった4枚の原稿でディレクターに704万円を支払う」「中学校運動会の応援旗を展示作品にして、市内全中学生を参加者にカウント」「目標2000万円の市民からの寄付は、実際に集まったのは95万円」などの実態が次々と明るみになり、開催中止も含めた見直しを求める決議や請願が繰り返し可決されました。

議会からの批判に対し清水市長は、トリエンナーレを「さいたま国際芸術祭」に名を変え、20年は経費を8億7244万円に圧縮して開催しましたが、来場者は1万人足らずでした。巨額な血税をイベントに費やすこれまでの政策はストップさせなくてはなりません。

## 徹底追及でずさんな実態を明らかにした

### ●5億円の盆栽が枯れていた事実を明るみに

大宮盆栽美術館の展示用に、市が栃木県の美術館から5億円で購入して来た盆栽。

私が09年6月議会で「枯れている盆栽はないのか」と追及したことを契機に、市が枯れた盆栽を隠していたことが明るみになりました。22年までに6550万円分が枯れています。



枯れた2200万円相当の「靖国」

### ●岩槻人形博物館を着工延期に追い込む

各政党・会派が建設に賛成する中で、10年夏から「展示用の人形がボロボロ」「展示品に岩槻人形が1つもない」「入場者数や収支、経済効果の見通しが立っていない」など、お粗末な実態を次々と暴露。新聞各紙で報道されたことで、10年度の着工をいったん断念させ、7年間延期になりました。



トリエンナーレ浦和会場で唯一の展示作品は、私が落書きした空きビン（「1」のまわりに注目）

おかしいものには「おかしい！」と  
徹底追及で暴いた事実が  
議会全体の空気を変えて  
大きな流れを作り出した

# さいたま市の財政を食い潰す 際限なく広がる

## 補助金のバラマキ

### ■ 清水市政の問題点は、補助金のバラマキ

「企業誘致」「経済振興」「商店街活性化」「地域によるまちづくり」「コミュニティ活動の支援」「スポーツ・健康の促進」「文化芸術都市創造」「伝統文化継承」…、さいたま市がさまざまな名目で交付している補助金の総額は21年度が525億2009万円で、16年度の283億8587万円から1.85倍にも膨れ上がりました。

22年9月議会の決算審査で、補助金を交付した団体数を質問したところ、副市長の答弁は「把握していません」でした。市の一般会計歳出（6410億円）の8.2%にあたる多額の補助金をばらまき、ばらまき過ぎていくつの団体に出したのか把握できないまま補助金を増やし続けているさいたま市の現状は異常です。

### ■ 企業誘致の補助金のはずが、撤退企業の追い銭に

さいたま市は「企業誘致のため」と称して、市内に従業員500人以上の本社や研究所を移した企業に「産業立地促進補助金」を交付しています。21年度までに28社に計36億4026万円を支給しました。

他市から企業の本社が市内に移れば、法人市民税など税収が増えます。ところが私が調べたところ交付先の約半数はもとから市内にあった企業でした。

さらに補助金を受け取って撤退してしまった企業まであります。61年から七里に工場があった八木アンテナ（現：HYSエンジニアリングサービス）は08～11年に5840万円の補助金をもらいながら、13年に七里の工場を閉鎖しました。私は17年10月の決算審査で補助金の返還を求めようにはしましたが、市は「経済振興の寄与が認められた」と放置。私は「10年以内に撤退したら補助金を返還すると交付要綱で定めておくべきだ」と提案しました。

21年には宮原駅西口に本社を置く自動車部品メーカーのマレリ（旧カルソニックカンセイ）が、テレワーク普及による本社の縮小と移転を発表しました。カルソニックカンセイの前身である関東精器は、60年から現在の場所に本社と工場を置いています。市は08年から14年

まで9億2738万円もの補助金を出していました。

吉田一郎 補助金の返還を求める規定はあるのか。

千枝経済局長 事業継続義務期間の10年を経過しているのに、返還に値しない。

吉田一郎 マレリは23年8月に宮原駅東口の旧しまむら本社に移転すると報道されている。宮原西口から東口に本社を移ただけで市の税収が増えるわけでもないのに、また補助金を申請できるのか。

千枝経済局長 企業の市外から市内への転入にとどまらず、市内企業の市外への流出防止の観点から、市内移転でも補助の対象になる。

戦時中からある植竹の富士フィルム（旧富士写真光機）の工場は、事務棟を建替えて工場を縮小し、3分の1をマンションにしていますが、市は事務棟の建替えに2億円の補助金を出しています。

市外から企業を誘致するはずの補助金が、数十年も前から市内にある企業にまで「よそに移転しないでくれ」と補助金を出し、撤退されても返還を求めず、市内で引越しただけで新たに補助金を追加し、縮小のための建替えにも補助金を出すのでは、何のために税金を使っているのかわかりません。

### ■ 補助金を出さなかった部署こそ、評価されるべきだ

補助金バラマキの原因の1つが、清水市長が毎年各部署に仕事ぶりを自己評価させている「総合振興計画の実施状況」です。

目標を達成したらA評価、目標以下ならB評価やC評価という採点方法ですが、「補助金を1000万円交付する」という目標だった場合、1000万円すべて支給してA評価、補助金の申請が500万円しかなければC評価になります。本来ならば、補助金をできるだけ出さずに、「経費削減」に取り組んだ部署こそA評価になるはずですが。

「予算は全部使い切るのが素晴らしい」という役所の体質を変えるため、私は今後も調査と追及を続けます。

## おかしい補助金を停止・返還・見直しさせた

### ● 労組の「ビール飲み放題」の補助金停止に

3つの労働団体に支給されていた年間200万円以上の補助金が、要綱を無視してビール飲み放題や潮干狩り、東京ディズニーランドのファンパーティーなどに使われていた実態を暴露し、半年がかりで追及。その結果、市は16年度から要綱を改正し、補助金を使える事業と使えない事業を明確化。飲食イベントへの使用は禁止になりました。



### ● ニセ写真と嘘の書類で得た補助金を返還

西浦和のまちづくり団体が、年度内に使いきれなかった補助金を翌年度に流用していたのに、「3月31日に花壇に花を植えて補助金を使い切った」とニセの写真とウソの書類を提出していたことを暴露。3月31日は大雨で花は植えられなかったことを証明する気象データを裁判所に提出し、住民訴訟で勝訴。2万9900円の補助金を返還させました。



### ● 外国人観光客の誘致に補助金乱発を告発

メニューに「麻婆豆腐」と漢字で書いた中華料理店に「多言語化表示」の補助金を交付したり、電波法を無視して盆栽美術館などを訪れた外国人にスマホでネットが閲覧できるSIMカードを配布した実態を議会で暴露。住民訴訟で清水市長に費用の返還を求めました。

### ● 複数部署に申請し補助金二重取り

22年9月議会で、市から消耗品の経費を含めた運営委託料を得ている浦和の学童保育が、モップの先を取り換えるために別の部局に補助金を申請した「二重取り」を暴露。市は今後、部局同士の調整し注意喚起することに。

### ● 他にもおかしい補助金を次々と発見・追及

▼「朝のあいさつ運動」と称した市議選の事前運動に90万円→返還させました。

▼最高裁で違憲とされた玉串料への補助金交付→返還させました。

▼「郵送費」と称して酒屋で切手を大量購入し、実際には使用せず→返還させました。

▼コロナでスポーツイベントが中止になり、余った補助金でパソコンを購入。

▼浦和美園～岩槻の地下鉄建設促進の補助金で、パンやバナナなど食べ物を大量に購入。

一切のしがらみのない  
無所属議員だからこそ  
いかなる団体の利害にも  
果敢に斬り込むことができる



# おかしい使い方は許さない！ 裁判に訴えてでも取り戻す

## 政務活動費の廃止を

### ■すべての政党が賛成し、政務活動費は7割もアップ

さいたま市議会では、年間1354万5494円の議員報酬の他に、議員活動の経費として年間408万円の政務活動費が支給されます。

合併当時の政務活動費は、年間240万円（月20万円）でした。しかし「さいたま市は政令指定都市になり、大阪や名古屋と肩を並べる大都市になった」ことを理由に、04年に議員報酬の3割アップとともに、政務活動費は月34万円へ7割もアップ。当時、まだ議員でなかった私は浦和の市役所前で抗議のハンガーストライキを行いました。政務活動費の7割アップは自民・公明・民主・共産など、当時すべての議員が賛成して可決されました。

05年に合併した岩槻の議員の政務活動費は、「さいたま市になった」という理由だけで、月2万円から34万円へ一挙に17倍もアップしたのです。

### ■さいたま市議会でも不正を続々と明るみに

政務活動費のスキャンダルが全国で相次いでいますが、さいたま市議会も例外ではありません。

例えば立憲民主党の議員（当時は民主党）は、政務活動費147万円を使ってアメリカへ海外視察に行き、各地で連日のようにグルメ三昧を繰り広げ、2kgも太って帰国する「不祥事」を起こしました。

自民党の議員は、政務活動費で「ケロロ軍曹」などマニア向けの収集用切手を大量購入したり、チラシの発送で政務活動費を二重取りするなどして刑事告発されました。さらに自分の母親に「事務所の清掃代」という名目で政務活動費を渡していました。

また自民党の市議団からは、視察の行き先や目的、乗車区間が書かれていない64万9690円のタクシー代の領収書が見つかっています。

共産党市議団は政務活動費で共産党発行の定期刊行物を毎月大量購入し、なかには所属議員数（当時8人）を上回る10冊購入した雑誌もありました。

私はおかしい使い方を見つけ次第、返還を求める市民からの請願を提出したり、住民監査請求や住民訴訟で不正または不適切に支出した政務活動費の返還を求めてきました。

これまでに立憲民主党2人と国民民主党1人（後に離党しさいたま

未来プロジェクトを結成）の議員から、政務活動費の一部を返還させたほか、22年には統一教会系組織の機関紙を政務活動費で「正規の購読料より高値で」購入していた自民党議員2人について住民監査請求を提出。昨年度に支払った購読料を返還させました。

### ■裁判にかけたことで、ようやく使途基準を厳格化

『政務活動費の使途基準』が07年に制定されましたが、各党派が議長応接室に集まり、いわば「談合」のように決めたものです。

私が使途基準の厳格化を求める市民からの請願を提出したり、おかしい使い方をした議員を住民訴訟で裁判にかけたことで、17年に使途基準が改正され、「親族への政務活動費での支払い禁止」「リース代は契約書を提出すること」「議員活動と政党・後援会・個人使用が混在する場合は、政務活動費が充てられる比率（按分比率）は50%以下とすること」などの厳格化が進みました。

しかし、政務活動費で家賃を払っている事務所を選挙でも使い、選挙期間中の家賃分は自費で払っても、告示前の選挙準備作業には政務活動費を使うなどの「流用」は、まだまだ通りついています。

### ■政務活動費の使用と議会での活動は関係なし

私は07年の初当選以来、政務活動費を1円も受け取っていません。これまで総額5600万円以上を受け取らなかったことになりました。

現在ではインターネットの普及で、国の法律や全国の自治体の条例・制度・取り組み・その評価など、資料を購入したり現地へ視察に行かなくても、自宅のパソコンやスマホで何でも調べられます。

実際に、政務活動費を受け取っていない私が、議会では断トツの回数で質問や追及、提案、意見表明などの発言を行っています。

さいたま市議会では15年に川村準議員（無所属）が、蕨市議会では11年に榎本和孝議員（無所属）など、政務活動費を受け取らない議員が次々と現れています。

今春の市議選では、見沼区や中央区、岩槻区からも政務活動費を受け取らない候補者が出馬する予定です。これらの仲間を増やすことで、さいたま市議会から「議会浄化」の風を全国に広げていきたいと思っています。



ニューヨークでリブステーキ

ボストンでロブスター

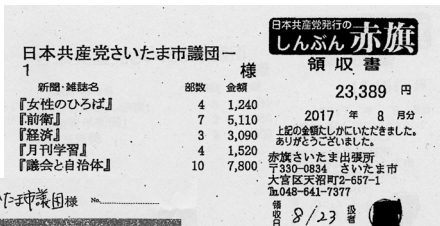
シカゴで900グラムのTボーンステーキ

### 政務活動費使用額と発言回数 (2021年度)

北区の議員	所属政党	政務活動費	発言
神田義行	共産党	406万7264円	3回
伊藤まなぶ	自民党	406万6191円	1回
小川ひさし	立憲民主党	406万4894円	0回
関ひろみ	公明党	366万5979円	1回
川崎照正	自民党	361万0716円	4回
伝田ひろみ	立憲民主党	334万1255円	0回
吉田一郎	無所属	0円	48回

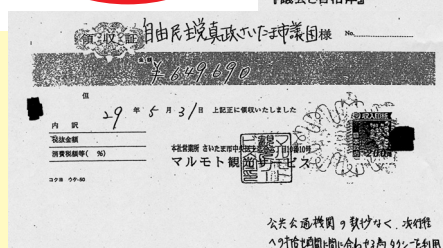
※金額は党派支給分の人数割と個人支給分の合計  
※発言は本会議での討論、質問、質疑、動議、議事進行の合計

### 政務活動費 乱用の数々



日本共産党さいたま市議団一様  
1  
新購・雑誌名  
『女性のひろば』  
『前衛』  
『経済』  
『月刊学習』  
『議会と自治体』  
総額 金額  
4 1,240  
7 5,110  
3 3,090  
4 1,520  
10 7,800  
2017年8月分  
上記の金額が大きかったです。ありがとうございました。  
赤旗  
日本共産党発行の  
しんぶん  
領収書  
23,389円  
赤旗さいたま出張所  
〒330-0834 さいたま市  
大宮区天沼町2-657-1  
☎048-641-7377  
署名 8/23 印

所属する政党の機関誌を政務活動費で大量購入



乗車区間も日付もない「タクシー代」

12年前に1人で始めた  
政務活動費を受け取らない議員活動  
クリーンな仲間の輪を広げ  
「議会浄化」を図りたい



# 大宮の市議として、大宮発展のために

## 無所属議員 吉田一郎

# これまで

## 私たちの北区をもっと住みよい街に

●**北部医療センターの新築・移転用地を確保**  
旧大宮市が市役所建設のために購入した富士重工跡地の再開発事業をさいたま市が中止すると言いつつ、09年2月のまちづくり委員会で、「空き地のまま放り出すつもりか」と半日がかりで追及。市は「病院誘致の予定地にする」と



明言し、老朽化した大宮総合病院（さいたま北部医療センター）の移転先に決定。19年3月に新病院がオープンしました。

●**小児科オールナイト診療の継続を実現**  
大宮医師会市民病院（宮原メディカルセンター）の閉鎖と、市民医療センターとして浦和との境への移転に、「人の命も浦和優先か！」と最後まで反対し、小児科オールナイト診療の維持を要求。09年3月から大宮総合病院（さいたま北部医療センター）で実施させました。

●**内科オールナイト診療の復活を要求**  
大宮医師会市民病院の閉鎖で中止になった内科終夜診療の復活を議会で再三要求。22年6月議会で市民からの請願を審議させました。

●**休日診療に外科の追加を提案**  
さいたま北部医療センターで行っている内科・小児科・耳鼻科・眼科の休日診療に、外科も追加するよう22年9月議会で提案。市に「医師会や医療機関と連携して必要な体制が整備できるよう取り組む」と回答させました。

●**病院移転に伴う救急車進入ルートの確保**  
ステラタウン前の4車線道路が、100%の用地買収を15年以上でず、行き止まり状態になっている問題を再三指摘。18年9月議会で北部医療センターの移転に伴い救急車の進入ルートを放置するのかと追及し、地権者と改めて協議することに。また国道17号の加茂宮駅前交差点が中央分離帯で閉ざされ、大宮方面から救急車が入れないと指摘し、信号機設置に向けて警察と協議させました。



●**さいたま北部医療センターを守れ!**  
厚労省が統廃合リストに入れたさいたま北部医療センターを、リストから外すよう市は国に

乗り込んで交渉すべきだと19年12月議会で追及。清水市政は消極的でしたが、地域医療に貢献する重要な医療機関だと市は国に説明するよう求める決議が全会一致で可決。

●**病院跡地の隣接地に公園整備を提案**  
22年9月議会で旧さいたま北部医療センター跡地に移転する植竹公民館や児童センターの用地を売却しようとした市の方針を追及。副市長に売却を見直しさせ、隣接する盆栽西公園の拡張を提案しました。

●**宮原メディカル跡地の動物病院へ転用阻止**  
大宮医師会市民病院の跡地を動物病院に転用しようとした清水市政の計画に対し、「人間のための病院を建ててください」という住民の請願を提出し、12年12月議会で追及。将来（人間のための）病院が建てられる可能性も考慮して、東宮原ぼうさい広場になりました。

●**指扇宮ヶ谷塔線の整備を要求**  
大宮北部を東西に結ぶ都市計画道路・指扇宮ヶ谷塔線が、国道17号～旧中山道が整備されただけで放置されている現状を再三にわたって指摘。第三期道路整備計画の策定にあたって整備候補路線にし、費用対効果を算出させました。

●**首都高に接続する道の歩道整備を実現**  
建設中の首都高宮前南インターに接続する指扇宮ヶ谷塔線の予定地に、宮前小が存在し建設不可能なことを21年2月議会で暴露。この区間は松山新道をインターへの代替道路にすることを提案し、歩道整備を行わせました。



●**自衛隊通りと大和田公園通り直結構復活**  
整備に時間がかかる指扇宮ヶ谷塔線の代用として、旧大宮市が構想していた自衛隊通りと大和田公園通りの直結を08年6月議会で提案。

●**大宮警察署の移転に反対署名を提出**  
土手町の大宮署を浦和と接する北袋町に移転する計画に対し、もとの場所に警察分署（分庁舎）を残すべきだと署名を集め、12年11月に上田知事に提出。18年12月議会で北区に大宮北署が設置されるまでの間、大宮署跡地に分署を設置することを改めて提案しました。

●**土呂東口の大病院へ乗合タクシーを運行**  
15年9月議会で彩の国東大宮メディカルセンターへのコミュニティバス乗り入れを要望し、17年8月から土呂駅～病院～東大宮駅に乗合タクシー「みめま号」が運行。20年9月議会で大和田口チャース前に停留所設置を提案。

●**「なかよし号」の利用促進策を提案**  
21年4月から運行開始した乗合タクシー「なかよし号」の利用者が、想定の4分の1で

廃止になりかねず、21年6月議会で区役所や宮原コメンへの延長、スーパーに停留所の増設、自由乗降区間の設置などを提案しました。

●**北区から市立病院への東武バス直通を提案**  
北区から浦和東部の市立病院や新都心コークンへ行きやすくするために、17年2月議会で上尾～大宮東口と大宮東口～新都心～市立病院の東武バス2路線の直通運転を提案。副市長にバス会社と交渉すると約束させました。

●**宮原小学校の通学路に側溝を整備**  
スクールゾーンでの児童死亡事故を08年12月で取り上げ、通学路の優先的なU字溝整備を要請。09年2月の補正予算で実現しました。

●**宮原駅西口の陥没を抜本的に解決**  
宮原駅西口北側は地盤沈下が続いて、雨が降れば階段前に大きな水たまりが出現。補修工事をして沈下を繰り返していたため、18年6月に北区役所に本格対策を要望。地下に大量の産業廃棄物が埋まっていたのが原因と分かり、18年10月に産業を撤去させました。

●**宮原駅西口のロータリー改善を提案**  
21年12月議会で「高齢者身障者」の乗降場がスクールバスの乗り場と化していることを指摘。バス乗り場の再編を提案しました。

●**宮原駅・土呂駅の始発電車をもっと早く!**  
18年6月議会で高崎線、宇都宮線の始発電車を繰り上げるよう鉄道会社と交渉すべきだと要求するとともに、東武バスの上尾～大宮東口線に、京浜東北線の始発に接続する「早朝バス」運行を提案。

●**土呂駅にエスカレーター設置を追及**  
市民からの請願を繰り返し提出し、20年8月の委員会で「設置するつもりはない」と答弁した市を「自治会連合会の要望書も無視するのか」と徹底追及。全会一致の決議が挙がる。

●**土呂駅を「益裁駅」に改称する動きを阻止**  
益裁美術館や益裁村の宣伝のために、土呂駅を「益裁駅」に、東口を「益裁口」に改称しようと一部の議員が区政懇談会で論議。17年6月議会で駅名改称を市に否定させました。

●**土呂駅東口のポロポロの銅像を修復**  
土呂駅東口のブロンズ像が、35年間もメンテナンスされていないことを18年6月議会で指摘。修復させるとともに、市内の公園、公共施設の銅像の定期メンテナンスを提案しました。

●**駅前の案内地図の表示を改善**  
土呂駅前の地図で、ステラタウンや病院など重要施設が抜けていたり、旧称が使われていることを17年12月議会で指摘。さっそく訂正。

●**土呂駅東口タクシー乗り場の段差解消**  
19年6月議会で実現し、22年春に実現。

●**川越線複線化のための用地確保**  
日進～川越間の複線化を市がJRに要望しながら、西大宮の区画整理では線路沿いに複線化用地を確保していない矛盾を19年2月議会で暴露。線路沿いに幅広い道路を確保して、複線化に転用できるように提案しました。

●**埼京線や川越線の減便にJRへ抗議させる**  
19年9月議会で緊急審議を提案。委員会で減便見直しやラッシュ増発を求める決議が挙がり、

# 議場は戦場！ いつでも全力で勝負だ の情熱と実績



副市長らがJRへ赴き決議文を手渡しました。

## ●川越線の回送電車に指扇まで乗客を

19年12月議会で大宮から日進・指扇方面へ向かう回送電車が平日11本、土休日4本あることを指摘し、乗客を乗せるよう提案しました。

## ●踏切の安全確保のための改良を実現

市内52カ所の踏切のうち、列車本数が多くスピードも速い東北本線と高崎線の踏切改良、特に乗馬踏切と盆栽踏切、宮原駅南側、旧大宮警察通りの踏切を優先するように18年6月議会で要望。盆栽踏切と宮原駅南側は21年に完成し、旧大宮警察通りは西側で用地買収に着手へ。



## ●ニューシャトルの始発電車繰り上げ実現

18年6月議会で市は株主として要求すべきだと提案。取締役会で話をさせ、19年4月ダイヤ改正で7分早くなり、早朝は10分間隔に。

## ●ニューシャトル駅前の駐輪場値下げを実現

市営駐輪場の有料化に関し、15年9月議会で「10時間100円では高すぎる」と追及。16年秋から24時間100円に値下げさせました。

## ●北大宮駅と土手町ガード直結を提案

18年12月議会で北大宮駅の改札を地下に移し、今の出口に加えて旧中山道の土手町ガードにも出口をつなぎ、ガード両側にエレベーターを設置する案を提案しました。

## ●工業団地と原市駅結ぶ吉野橋開通を後押し

上尾との市境で計画から30年経ち、橋は完

成しても周辺道路の工事が遅れていた吉野橋の早期開通を求める請願を17年2月議会に提出。市は3月に工事発注を行い、8月に開通。

## ●コミュニティバスの土曜運行を試験実施

08年6月議会で提案。10年秋に北区と桜区で。

## ●北区役所の西側にも駐輪場を設置

08年春の区政懇談会で提案し、すぐに実現。



## ●日進の切敷川に浸水対策用排水ポンプ設置

松原住宅の浸水被害を07年9月の建設水道委で指摘。08年度予算で排水ポンプを設置。

## ●宮原公民館などの大規模改修を実現

08年6月議会で提案。09年度予算で実現。

## ●プラザノース前広場をイベントで開放

19年12月議会で取り上げ、今後はイベント使用の相談に応じると約束させました。

## ●大砂土放課後児童クラブ改修時は小学校に

22年7月から23年3月までの工事期間中、空調のない1階ロビーに移動する予定でしたが、21年9月議会で「大砂土小学校の空き教室を使うべきだ」と教育長に直訴し実現しました。

## ●漫画会館を特色ある施設にリフレッシュを

18年2月議会で70年代の単行本が多く日曜しか開かない閲覧室を、北沢楽天にちなんで戦前の漫画に特化した資料館にするよう提案しました。

## ●道路から生える木に反射テープで安全対策。

●吉野原駅の段差解消を提案。●宮原駅西口の北階段に鳩除けの網を設置。

大宮市役所6階で予算委員会を開催させました。

## ●大宮区役所跡地の「空洞化」は許さない

旧大宮市役所跡地をタクシー待機場にする市の計画を「中心街の空洞化を生む」と批判。16年12月議会で敷地の一部は神社が「庁舎敷地」として市に貸していた契約を明らかに。

## ●大宮市民の血税240億円で購入した土地を守る

大宮市が複合文化施設を建設するために購入した桜木駐車を、民間企業へ69億円で叩き売ろうとしていたことを22年6月議会で追及。「損害分を住民訴訟で清水市長に請求する」と警告し、売却計画を中止させました。

## ●大宮門街の「雑居ビル化」を追及

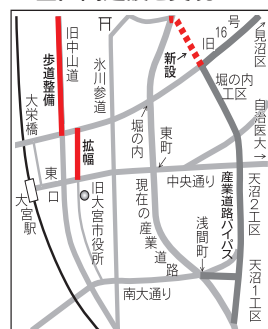
491億円もの血税を投じた中央デパート跡地の再開発ビル「大宮門街」のテナントが、クリニック中心で大宮の賑わい創出とは程遠く、雑居ビル化した現状を22年6月議会で追及。補助金を出す再開発ビルのテナント選定は、市が口を出すように提案しました。

## ●大宮市民会館を「欠陥市民会館」にするな

「大宮門街」に移転した市民会館おみよの搬入用エレベーターが小さすぎて、コンサートや演劇ができなくなる恐れがあると暴露。18年9月議会で設計見直しを要求しました。

## ●産業道路バイパスの全区間建設を実現

大宮市街地の交通渋滞緩和のため、大宮市が計画したサッカー場～北袋の4車線バイパスのうち、さいたま市が旧16号以南しか建設しないことを11年2月議会から繰り返し追及。第三期道路整備計画に全区間の建設を盛り込ませ、24年度までに測量・用地買収に着手することに。



●旧中山道に並行して東側に新たな道路建設

旧中の渋滞解消のため、旧市役所通りの東口駅前通り～旧16号の拡幅を11年9月議会で提案。12年度に設計費を計上させ、15年度から用地買収がスタートしたが買収が難航。市は36年度完成と言い出したので、20年12月議会で「用地買収が進む東側に寄せて暫定整備を」と提案し、26年度末までに2車線化の予定に。

## ●旧中山道の大栄橋～裏参道に歩道を整備

08年6月議会から再三にわたって追及し、15年度から用地買収に着手。買収の遅れに関して20年12月議会で宮町郵便局より南の優先整備を提案し、この区間は22年度に歩道スペースを確保。電線地中化の工事が始まりました。

## ●旧中山道の渋滞原因のポールを撤去

旧中山道の大栄橋交差点に設置された赤いポールが、車道を狭めて渋滞原因になっていると21年2月議会で指摘。警察と協議撤去させました。



## ふるさと大宮のために実現しました

### ●首都高の宮前町の先まで延伸を提案し実現

新大宮バイパスの中央に確保された用地を活用して、首都高埼玉大宮線を暫定的に宮前町まで延ばすよう07年12月議会で提案。その後も議会で要望を続け、09年に国や県、市、高速各社で「新大宮上尾道路検討会」が発足。国が16年度に予算を付けて宮前町の先の上尾南ICまでの建設が決定し、26年度に開通予定です。



### ●大宮図書館の郷土資料を守る

07年秋に浦和に中央図書館がオープンする際に、大宮図書館の郷土資料や明治期からの新聞等を移す計画に対して、07年9月議会で追及し、「大宮に残す」と確認させました。大宮区役所と大宮図書館の移転・統廃合では、15年9月議会で教育委員会に「大宮図書館の資料はそのまま新図書館に移す」と答弁させ、12月議会で「所蔵の図書資料を新図書館に確実に継承すること」の決議が全会一致で可決。

たった1人で始めた「大宮図書館の蔵書を守れ！」の運動が、議会全体の意思になりました。

### ●大宮の子もたちに大宮を教える教科書を

小学校の社会科副読本の内容が、大宮や新都心にはほとんど触れず、浦和の紹介に偏っていることを10年9月議会で指摘。1517筆の署名を教育委員会へ提出するとともに、『日本教育新聞』で私のインタビュー記事が掲載され、さいたま市の「教科書問題」が全国の教育界に波紋を広げた結果、11年度から合併前の旧4市の地理や特色、大宮駅の開設に尽力した白井助七翁の功績などが掲載されることになりました。

### ●若田宇宙飛行士の帰還報告会は大宮で

若田宇宙飛行士との交流イベントがすべて浦和で行われていたことを09年9月議会で批判。帰還報告会は大宮で行うように提案し、ソニックシティで開催。14年の報告会も市民会館おみよやで開催されました。

### ●旧大宮市役所で8年ぶりに議会を開催

予算委理事会で提案し、09年1月に旧



### ●駐停車の取締り旧中山道の渋滞を緩和

17年6月議会で駐停車禁止の違反取り締まりを求める市民の請願を提出。警察のパトロールが強化され、渋滞がだいぶ緩和されました。

### ●大宮門前で旧中の渋滞悪化を未然に防止

北側の駐車場から出庫する車が旧中山道に出ないように21年12月議会で提案し実現。大宮門前で3倍に広がった歩道の一部を使い、高島屋交差点に右折レーン設置も提案しました。

### ●大宮から東西南北の高速道路網を

景が20年後を目標に核都市広域幹線道路(横浜~立川~大宮~柏~千葉)の開通を目指していることを21年2月議会で指摘。市の道路整備計画も足並みを揃えることを約束させました。

### ●道路整備に合わせ都市計画の見直し提案

大宮西口駅前通りや産業道路バイパスなどを4車線化しても、沿道が第一種住宅専用地域のままでは大型店が進出できずビルも建てられないと20年12月議会で指摘。土地の用途を規制した都市計画の見直しを提案しました。

### ●「鉄道のまち・大宮」を守る

市立博物館の展示に「鉄道の町・さいたま」とあるのはおかしいと08年6月議会で指摘。地域住民の意見を聞くよう約束させ、09年2月議会で「確におかしい」と確認させました。

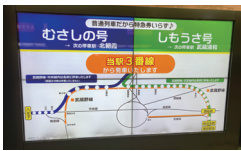


### ●大宮~片柳~浦和美園の地下鉄採算調査を

大宮~浦和美園のLRT(次世代型路面電車)計画で、人が住んでいない見沼田んぼを直進するルートや、浦和東部を大きく迂回するルートを有力候補としたことや、2000億円と見られる用地買収費を考慮していないことを批判。バスが1日片道411本走る片柳ルートで、用地買収が不要な地下鉄建設も含めた採算調査を提案。

### ●大宮から武蔵野線へ直通電車の運行本格化

09年2月議会で提案、10年12月ダイヤ改正で、むさしの号定期化と、しもうさ号が新設。



### ●大宮駅にすべての新幹線が停車に

大宮駅を通過する新幹線が4本あったため、09年2月議会で「かつて大宮市議会で新幹線の全列車停車を決議したはずだ」と、JRと交渉するよう発破をかけた。15年に全列車が停車。

### ●武蔵浦和へ新幹線停車の相川プランを阻止

相川前市長が掲げていた武蔵浦和への新幹線停車について、09年6月議会で「大宮の次に武蔵浦和に停車したら通勤快速並みだ」「東北や上越の人にも迷惑だ」と追及。市に「実行しない」と明言させました。

### ●JRと東武野田線との乗り換え改善を

大宮駅で京浜東北線の乗り場前にあった改札の復活を求める市民の請願を提出。11年12月議会で可決し、市はJRと交渉に。

### ●大宮市の「新駅計画」復活を要望

大宮市の都市計画マスタープランに掲載されていた北宮原駅や宮ヶ谷塔駅の設置計画を、周辺住民に説明しないまま削除していたことを21年2月議会で暴露。周辺での新たな整備計画による計画復活の可能性を認めさせました。

### ●大宮駅西口の高速バス乗り場を整備

08年6月議会で「乗客は雨ざらしか」と追及。09年夏に屋根付きのバス乗り場を整備。



### ●大宮駅~氷川神社に土日バス運行を提案

08年9月議会で土日は運休しているコミュニティバスの車両を使い、観光ルートでの運行を提案。市は研究することに。

### ●大宮東口広場の再開発案を改善

一般車の乗降場を南銀の奥に移す計画を18年11月の委員会で「高齢者や障害者の送迎に不便だ」と批判。駅前広場地下に駅舎と直結した乗降場の案に変更させました。

### ●大宮東口の現実離れた「火災リスク」

首都圏直下型地震を想定した地区ごとの火災リスクで、木造の飲食店が集中する大宮東口駅前や南銀一帯が「ほとんど被害ゼロ」となっていることを17年2月議会で追及。表示方法の見直しを研究させることになりました。

### ●大宮東口の火災跡地の緊急購入を提案

22年11月に発生した大宮駅東口広場北側の火災の焼け跡にペンシルビルを建てようとしている情報入手。12月議会で



「ビルが建てば広場が広げられなくなる」と市に地権者と交渉し購入するよう提案しました。

### ●撤去された大宮駅東口広場の時計再設置。

08年12月議会で提案し、09年に実現。

### ●新制度活用し「歩いて楽しい大宮」を

道路法の改正で一定幅以上の歩道でカフェや屋台の許可が可能になり、20年12月議会で一の宮通りや旧市役所通り、上落合桜木線など通りごとに特色ある出店の誘致を提案しました。

### ●市立病院へ見沼区コミバスの乗り入れを

421億円の公費を投じて建替えた市立病院へのバス路線は大部分が浦和からの現状を16年6月議会で追及。隣接する見沼区コミュニティバスの市立病院乗り入れを提案し、12月に住民の署名を都市局長に提出しました。

### ●西楽園の存続を確約させる

25年度に予定している西部環境センターの閉鎖に伴い、ゴミ焼却の余熱を利用している西楽園の存続について18年9月議会で追及し、「閉鎖後も存続する」と答弁させました。

### ●大宮中心部へのゴミ収集車殺到を阻止

西部環境センターの閉鎖で大宮西部のゴミを七里の処理場に運んだら大宮中心部が大渋滞になると22年9月議会で追及。大宮西部のゴミは浦和西部へ運ぶよう提案し、「収集車は高崎線を越えない」の原則を確認させました。

### ●大宮西口の宇宙劇場を守れ!

大宮の宇宙劇場が、浦和の青少年宇宙科学館と似ていると、市は閉鎖を画策。16年2月議会で青少年宇宙科学館は教育用、宇宙劇場は市民・観光客用と役割分担すべきだと提案し、教育委員会に当面の存続を確約させました。

### ●大宮に大宮の市民活動のサポート拠点を

浦和駅前の市民活動サポートセンターの利用者の7割が浦和の団体で、大宮の団体は1割に過ぎず、市外の団体よりも少ないことを再三追及。大宮や与野・岩槻にも市民活動の拠点施設を整備するよう提案しました。

### ●来場者減少続く大宮花の丘の活性化を

21年12月議会で乗合タクシーの乗り入れや、野菜直売日を増やすことを提案。首都高開通に合わせ魅力的な施設になるよう研究を促し、市は来場者増の方策に取り組むことに。

### ●大宮で集めた募金は、大宮の福祉に

社会福祉協議会の賛助会費や歳末助け合い募金の集金方法が旧4市で異なり、1世帯あたりの集金額が大宮は浦和の1.83倍あることを08年9月議会で追及。旧4市の募金はその地域で使える仕組みを提案しました。

### ●浦和が17倍多かった夏祭り補助金を平等に

07年に直訴し、08年から大宮と浦和が同額に。

### ●高齢者の浴場利用券をスーパー銭湯でも

21年9月議会で銭湯は大宮で1ヵ所だけと指摘。スーパー銭湯でも利用できるよう提案。

### ●許せない!「桜並木も浦和優先」

市民からの寄付金で植樹した見沼田んぼの桜回廊が浦和にばかり集中している現状を20年12月議会で追及。大宮での植樹を要求。

### ●市民会館の利用料金値下げを実現

市民会館おみやの集会所の料金が、浦和コミュニティセンターの約5倍で設定されていることを17年12月議会で追及。市民会館移転後は30人以下の部屋が最大半額に値下げに。

### ●市役所移転に合わせ消防本部は大宮に

22年6月議会でヘリポートが完備した自治医大横の旧大宮市消防本部(現:防災センター)への移転を提案。市全体で検討することに。

### ●大宮駅西口に公衆トイレを提案し完成

市民の請願を3度にわたり提出し、難航した候補地の選定に12年1月の委員会で旧ONライナー乗り場跡地を提案。19年にJRとの協議がまとまり、22年8月に完成しました。



### ●公民館が浦和30ヵ所、大宮18ヵ所という

格差を追及。●大宮が3割高額だった市営駐輪場の月額料金の格差を指摘。14年度から大宮は値下げに。●大宮駅東口北階段に上下のエスカレーター設置を要望。●南浦和の下水道整備で出たヒ素混入残土を、市が指扇小学校の横に山積みしていたことを暴露。●旧中の渋滞悪化を招いた銀座通りの一方通行化実験を中止に。●工事が78年間中断している大宮東口駅前通りの氷川参道~産業道路の拡幅を追及。●大宮の小学校の「十日市は午後休校」復活を提案。

## 無所属だからできる、大胆な暴露と徹底追及

### ●五輪延期の可能性を予言して10億円節約

2020年夏の東京五輪の関連予算に市は17億円を計上。2月に予算審議が始まった時、コロナは一般に「武漢で新型肺炎が流行っている」という程度の認識でしたが、私は香港で新聞記者をしていた経験で、現地の報道から流行は世界的に拡大し、オリンピックが中止や延期になる可能性もあると判断。業者との契約は中止も念頭に入れるよう提案して全会一致で決議が挙がり、東京五輪は延期になりましたが支出を7億

円に抑えることができました。

### ●「中止なら爆破か」と迫り7600万円節約

1年延期された東京五輪の聖火リレー記念碑を、リレー前に8000万円かけて新都心公園に建てようと言う清水市長の計画に、20年12月議会で「聖火リレーが中止になったら爆破するのか」と追及し、記念碑設置は見合わせに。リレーは中止になり、市は小さな記念碑を建てましたが、費用を385万円に縮小させました。

## ●「秘密の花火大会」を今後は公開に

コロナを口実に花火大会の開催日時を非公開にしたことを、22年9月議会で8743万円の予算を使い市民に花火を見せないのはおかしいと追及。二度と秘密にしないと確約させる。

## ●市の「公立保育所半減計画」を追及

22年2月議会で公立保育所を統廃合や民間への売却で半分に減らす計画を追及。現状でも申込者の2割が入れないことを明らかに。

## ●セントラルパークに「入口がない」と指摘

自治医大裏の見沼田んぼに建設するセントラルパークの用地買収が22年度から開始。災害時の支援拠点を兼ねて数百台規模の駐車場を造るのに、接続する道がないことを21年2月議会で指摘。道路整備計画で優先路線の対象に。

## ●上下水道の料金値下げを要求

21年2月議会で、県からの水道水の購入価格は県内均一なのに水道料金は本庄の1.8倍、下水道処理の委託料も同額なのに下水道料金は戸田の2.4倍もしていることを暴露。

## ●商品券の高すぎる委託費を追及し圧縮

20年9月議会でプレミアム商品券は市民への還元が12億円に対し、業者の販売委託費が7億1776万円は高すぎると追及。21年度は還元18億円に対し委託費は5億9360万円に圧縮。

## ●スーパークレイマーから学校を守る

部活をしていない日にも「部活がうるさい」と土屋中に100回以上クレームをしている人物に対し、19年12月議会で医療と連携した対処を提案。教育委員会には学校担当弁護士を配置。

## ●市議選の「不正開票疑惑」を追及

19年6月議会で、北区の選管が同年の市議選で開票前に各候補者のおおよその得票数を把握し、開票所で各候補の票を置く机の大きさを変えていた疑惑を追及しました。

## ●教職員の学校敷地内駐車を許可制に

教職員がマイカーを「無許可駐車」している現状を追及し、交通不便な学校や、公務使用、病気やケガ、障害、妊娠などの場合に限定するよう提案。18年4月に教育委員会は私の提案にほぼ沿った要綱を制定しました。

## ●大震災で職員の残業手当、救援物資の20倍

東日本大震災で職員に支払った残業代が1億4000万円で、被災地へ送った救援物資2200万円の20倍だったことを、11年5月議会で追及。大災害時には残業手当を減額する労使協約をあらかじめ結ぶことを提案。

## ●写真加工で工事検査を誤魔化す実態を暴露

市は公共工事を請け負った業者に現場写真を提出させ完了検査をしていますが、浅い穴を深く掘ったように見せかける写真修正業者の存在を15年12月議会で暴露。手抜き工事の温床だと、すべての工事写真を再検査させました。

修正前  
スタッフの移動履歴、人物、物の移動 消去 挿入 いろいろできます。



## ●生活保護を食い物にする貧困ビジネス暴露

「生活保護の申請同行」で料金を徴収するNPOや、一軒家に生活保護受給者を何人も住まわせて多額の家賃を徴収する無届施設の実態を、12年6月議会で暴露。国会でも問題になり、厚労省の政務官が調査を約束しました。

## ●健康な人には生活保護の支給より雇用を

「ベント購入2か月後に生活保護を受給」

「生活保護で豊胸手術」「名古屋までの通院に交通費を支給」「入院患者全員が生活保護を受給という病院が2か所」など生活保護の不適切な実態を明らかにし、健康で働ける人には、生活保護を支給するよりも市が臨時職員として雇用し、賃金として支給することを提案。16年2月議会で自立支援目的の任用を検討することに。

## ●不正受給を見逃す清水市長らを告発

生活保護の不正受給は犯罪なのに、市はすべて放置。そこで2042万円を不正受給した一家を警察へ告訴せず、保護費の支給を継続していた清水市長らを12年7月に刑事告発したところ、市は13年8月から不正受給者の刑事告発に踏み切り、21年までに12人が有罪判決に。

## ●労働団体への1億2000万の公金支出を追及

市役所機能を浦和へ一極集中させるために、労働団体が浦和の市役所裏手に所有する「ときわ会館」を、市が毎年1億2000万円もの家賃を支払い、ほぼ丸ごと借り上げていることを批判。大宮区役所に市役所機能の一部移転を提案。

## ●間違いだらけの『さいたま市史』を追及

17年6月議会で『鉄道編』に60か所の誤りがあることを指摘し、19年12月議会では『自然編』に238か所もの誤りがあったことを暴露。編さん委員に郷土史家を入れることや全体の監修者を置くことを提案し、実行することに。

## ●史実を無視した市の観光パンフを追及

11年9月議会で、浦和はうなぎの蒲焼発祥の地や、氷川神社は邪馬台国より昔からあるなど、史実に反した市の観光パンフを国立国会図書館の史料をもとに追及。教育委員会も「子どもたちには、自ら調べるように指導している」との見解を出しました。



## ●毎年2億円の「浦和の賑わい創出」を廃止

市は1000億円以上を投じて浦和駅の開発を進め、中核的な公共施設を集中させたコムナレを建てたうえ、浦和駅東口の賑わいを創出する」と毎年2億円以上の公金を投じてさまざまなイベントを開催。09年12月議会で厳しく批判し、10年度から賑わい創出事業は廃止に。

## ●地域に偏りのない公平な入札制度を提案

地デジ移行に伴う小中学校のテレビ買い替えて、8割を浦和の業者から購入するという清水市長の提案を、09年12月議会で批判。入札を旧4市別で実施して、大宮の物品購入や工事は大宮で発注することを提案しました。

## ●ふるさと納税で大赤字の実態を明るみに

16年9月議会で、15年度のふるさと納税がお礼の品や職員人件費で10万円の赤字だったことを暴露。また市の税収が9億円減少していることが明らかに。大宮駅東口の東日本連携支援センター（まるまる）で、東北や北陸各市のふるさと納税受付を目玉にしようとしたのを、「さいたま市に納税しないよう呼びかけるつもりか」と批判し、止めさせました。

## ●清水市長を讃える市政私物化をストップ！

清水市長が自らの選挙スローガン「絆」と書いた額を小中学校に掲げさせたり、合併10周年のイベントで子どもたちや父母に唱和させようとしたり、市内各地に「きずな広場」を設

置しようと画策していたことを追及。超党派で決議を挙げ断念させました。

## ●清水と党に転じた議員の土地購入に警鐘

自民党から清水と党に転じた議員の雑木林を、09年9月議会で市が「見沼田んぼの景観保全」と称して2億4300万円で緊急購入。「与党議員の土地を相場以上の価格で購入すれば疑惑を生む」と批判し、売買契約書を公開させる。



## ●市長公用車の乱用ぶりを明らかに

公務以外では使えない公用車で、清水市長が15年の市議選で民主党候補の応援にまわっていたことを16年6月議会で暴露。公務以外で使った燃料代や運転手人件費の返還を要求。

## ●公文書の鉛筆書き禁止を徹底させる

公文書は改竄を防ぐため鉛筆書きは禁止されています。15年9月議会で「鉛筆書き公文書」の存在を暴露。全庁調査させたところ、市全体で3.8%、北区役所では16.2%の公文書が鉛筆書きと判明。ボールペン使用を徹底させました。

## ●官製談合や公文書偽造を暴露し、職員逮捕に

南部都市・公園管理事務所で、競争入札を避けるため1つの工事を細分化し、99万7500円で随意契約していたことを12年9月議会で指摘。実際には工事が行われていなくても「完了確認」の公文書を偽造して業者に1985万円の代金を払っていたことなども判明。14年10月に担当職員が逮捕されました。

## ●市民に利用させず「節電達成」の内幕暴露

プラザイストで11年夏、市の節電目標を達成するために、空室を「予約済」と偽っていた実態を、12年月議会で暴露。

## ●相川前市長の商工会議所会頭就任に警鐘

10年6月議会で「市の各種審議会に、財界代表として相川前市長を迎え入れ、『院政』を敷かせるつもりか」と問いただし、結局、相川前市長は会頭就任を断念しました。

## ●指定管理者に応募した団体をすべて公開に

09年12月議会で追及、10年2月議会から公開。

## ●教育委員が市内企業の広告塔になっている

ことを問題視。●市民会館うらわの結婚式場が長年利用ゼロなことを暴露。他の用途への転用促す。●清水市長が「縁故採用」した幹部職員の人件費を公開させる。●i川（あいかわ）マークと呼ばれる市章の変更を求める市民の請願を議会に提出し、審議させる。

## ●税金の無駄の数々を追及

▼公共施設を新電力に切り替えたら電気代が5億3000万円高つくハメに。▼年間80人しか利用者がいない外国語教室を開催する国際交流協会に5000万円の補助金。▼交通の利便性を考えず北浦和に開設し、予測の半分（1日55人）しか利用者がいない、ふるさとハローワーク。▼800万円かけて北浦和駅東口に屋外モニターを設置したが、駅前広場が狭すぎて太陽光が反射し使用停止に。▼63億円も高い値段を提示した企業が落札した桜環境センター建設工事。▼産廃の上に学校を建設し、2億2000万円の追加費用。▼6億6000万円を投じて捨てられる「備蓄用タミフル」。▼1時間に数人しか歩行者がいない田んぼの道に何億円もかけて歩道を優先整備…ほか。

# 細やかなアイデアと提案で、実現しました

## ●自販機で市の収入が年間1.6億円増加に

区役所や公共施設の飲み物の自販機652台の大部分が、外郭団体や福祉団体に無償もしくは年間数千円で設置させていたことを12年9月議会で問題視。市立病院の入札で1台最高306万円の収入になったことを挙げ、「市全体で実施すれば年間数億円の収入増になる」と提案し、各施設で順次実施。21年度には240台の設置料で、さいたま市の収入を1億6189万4265円増やしました。



●**下水処理場の閉鎖を提案し126億円節約**  
22年9月議会で市内の1%の下水しか扱わない大宮の下水処理場を閉鎖し、下水はすべて県の処理施設に任せることを提案。市は閉鎖を決め、改築費用を含め126億円が節約に。

●**台風でパンクした市のHPを増強させる**  
19年の台風19号で市のHPにアクセスが集中してパンク。改善を求める市民の請願を提出し、20年1月から新システム導入で大量アクセスにも対応できるようになり、twitterでも災害情報を迅速に発信するようになりました。

●**台風や豪雨時に河川の映像提供を増強**  
河川の画像が閲覧できる水位情報システムが、19年の台風19号でアクセスが集中してパンク。水位が低かった時の古い画像が表示されたままになり、改善を求める市民の請願を提出。20年の台風シーズンまでに増強させ、夜暗くなる場所には赤外線カメラを設置させました。

●**給食費値上げの抑制策を提案**  
各学校任せて教育委員会も把握していなかった給食の食材調達について、20年2月議会で区やブロックごとに入札を行い、給食費の値上げ抑制や食材の品質向上を行うよう提案。

●**同じ処方薬でも薬局ごとに値段が違う**  
21年12月議会で調剤基本料の違いや加算について市民への周知を提案。22年度から『国保のしおり』に掲載されました。

●**人間ドックの助成拡大を提案**  
21年9月議会で自己負担額が川口や川越の3倍以上だと指摘。助成額の増額や脳ドックも対象にすることを提案しました。

●**市税滞納の分割納付の期限を緩和**  
15年9月議会で、誓約書を提出すれば5年以上の分割納付も法的に可能と認めさせました。20年6月議会でコロナで収入が減少した滞納者の実情を訴え、市は柔軟な対応を約束。

●**大宮のお囃子を無形民俗文化財に**  
19年6月議会で江戸から明治にかけて様々な流派が生まれた歴史を紹介。教育委員会に指定に向けた予備調査を行わせました。

●**「浦和のパナマ」水上マーケットを提案**  
20年6月議会で整備に8億円使った見沼通船掘で、観光客を船に乗せ通船掘を通過する間に小舟でドリンクやお土産を売るなど、観光活用で整備費用の一部を賄うよう提案しました。

●**市立病院で外国人向け医療通訳を導入**  
17年12月議会で提案し実施。

●**市立病院の診療費未払い対策を提案**  
22年9月議会で、病気で支払う能力がない患者には市の貸付制度や生活保護を案内し、

支払う能力があるのに支払わない患者には訴訟による回収を提案しました。

●**出産育児一時金の増額を提案**  
21年12月議会で市の独自補助を提案。23年度から国が増額へ。

●**病児保育の時間延長を提案**  
20年12月議会で提案。利用者ニーズの調査へ。

●**第3子の保育料無償化を実現**  
15年10月に市民からの請願を提出して交渉し、12月議会で予算がつき実施に。

●**障害者の移動支援をニーズに合わせ改善**  
障害者の通学・通所のための移動支援事業が「バス停まで」という中途半端な制度のため、利用者が想定外の4分の1しかないことを11年12月議会で取り上げ、12年度から個別ケースで通学先や通所先までの送迎を可能に。

●**視覚障害者用アプリの統一を提案**  
22年2月議会で交通信号や駅の階段、公共施設の入口、ワクチン接種券の音声ガイドなど様々なアプリを統一し、国の規格に合わせることを提案。市は研究することに。

●**ペットと一緒に過ごせる専用避難所を提案**  
15年12月議会で、大規模震災時に見沼たんぼや荒川河川敷で開設することを提案。他

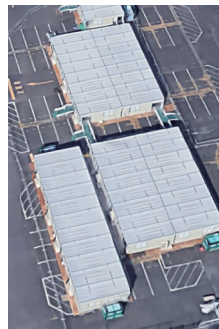
## さまざまな発想でコロナ対策に全力

●**自宅療養者に食料配送を提案して実現**  
20年3月の委員会で中国や台湾、韓国では行政が食料や日用品を届けていることを紹介。さいたま市でも実施するよう再三にわたり提案し、11月から県と共同でスタート。国が自宅療養者の外出を公式に認めた22年9月末までに、1万4635件の食料品配送が実施されました。



●**軽症者向けの療養ホテルの確保を提案**  
ホテルの借上げを20年4月に埼玉県のホテル組合が拒否。そこで市が独自にホテルを借りよう提案し、自宅で容態が急変した事件を受けて入所の優先順位を明確にするよう要望。

●**大規模集団接種会場の必要性を訴え実現**  
市は21年2月議会で「集団接種は区役所で土日を実施する」と発表。これでは週1万人しか接種できず「駅前で行きやすい場所や民間施設を借りて平日や夜間も実施すべきだ」と強く要求し、旧大宮区役所の活用を提案。その結果、大宮高島屋やスーパーアリーナ、浦和コルソ、イオン各店舗、ステラモールなどに集団接種会場が作られ、旧大宮区役所のかわりに設置された桜木駐車場は夜8時までオープンに。



●**有料だった接種の電話予約を無料に**  
接種予約や問い合わせのコールセンターが有

料の事例などを研究すると約束させました。  
●**利用少ない農機施設を誰でも使えるように**  
春おか広場（農村広場）の若手農機向け研修施設は、農機の利用が1年間ゼロだと21年12月議会で追及。誰でも使えるように提案し、22年から公共施設予約システムで利用可能に。  
●**市と葬祭業者の提携で安価な「市民葬」を**  
15年6月議会で提案。将来的に検討へ。  
●**道路と民有地との境界画定測量を促進**  
住民から要望が多いU字溝の整備が進まない原因として、道路と民有地との境界が旧浦和市では100%画定しているのに、旧大宮市では4割が未画定なことを08年2月議会で指摘。年次計画を立てて画定を進めるよう提案し、実現。  
●**職員の残業抑制のためにタイムカードを**  
12年2月議会で提案。県は実施、市は拒否。  
●**住民不在の区割りの見直し**  
同一町内が浦和区と南区に分断されている神明地区について、区割り変更を求める住民の請願を提出。11年2月議会で民主党以外が賛成し、趣旨採択されました。  
●**コミュニティセンターに印刷機設置**  
10年6月議会で提案し、11年度から実現。  
●**荒廃していた市内各地の平和モニュメントの総点検と復元を実現。** ●**高齢化社会に向けて「夕方火葬」を提案。** ●**「こころの電話」の夜間や休日開設を提案。** ●**人口が増えているベトナム人向けの生活相談を提案。**

料のナビダイヤルで、市民から9200万円もの料金を徴収。21年6月議会で無料化を求める市民からの請願を提出して追及し、7月末から無料のフリーダイヤルに変更させました。

●**国の通知を無視した接種券の遅れを追及**  
21年6月議会で接種券の発送が「全国の政令市で2番目に遅い」と批判し、国が全国の自治体に「6月中旬に広く住民に発送するように」と通知を出していたことを暴露。年別の発送スケジュールを前倒しさせました。

●**大規模接種会場の予約ガラガラを改善**  
接種予約の年齢制限が厳しすぎて桜木駐車場の集団接種会場が9849人分もの接種枠が空いたまま受付終了になっていたことを21年6月議会で暴露。基礎疾患がある人への接種券の先行送付や、教員・保育士・高齢者障害者施設従業員への優先接種受付を実現しました。

●**接種予約開始日の周知に防災無線を活用**  
接種券の同封資料には「HP等でお知らせします」としか書かれておらず、21年7月の委員会で防災無線の活用を提案。すぐ実施に。

●**接種情報の入力遅れを改めさせる**  
市は「個人情報の保護に疑問」と国のワクチン接種システム（VRS）に入力せず、厚労省の発表で「接種人数ゼロ」が続いていたことを21年6月議会で追及。国はVRSをもとに自治体ごとのワクチン供給量を決めていることを指摘し、早急に入力させました。

●**医療機関の一覧表をわかりやすく**  
市のHPではワクチン接種を行う医療機関を病院側の都合で一部しか掲載せず混乱している状況を21年6月議会で批判。市のHPに接種可能な医療機関をすべて掲載し、予約方法も市の予約サイトか病院で直接受付かかかりつけ患者限定かを明記するよう提案し9月から実施。

●**12～15歳に集団接種会場を確保**  
集団接種会場は16歳以上しか接種できず、

21年9月議会で「中学生は小児科へ行くのを嫌がる」と集団接種の対象にするよう提案。12～15歳は保護者同伴で集団接種が受けられるようになり、受験生優先枠も確保させました。

### ●接種したい人がすぐ打てる場所を情報発信

接種希望者が多くて予約が取りにくい状況だった21年夏～秋に、予約サイトの空き情報や県の集団接種、都内への通勤・通学者向けの東京都の集団接種、誰にでも開放された職場接種などの情報を、twitterで連日発信しました。



### ●3回目接種を前倒して実施

3回目接種の時期を国は当初「2回目の8か月後」としていましたが、21年9月議会で「海外では6か月後の国もあり前倒しに備えるべきだ」と指摘。印刷会社との契約を前倒し可能な形にさせ、22年1月から他市に先駆けてすべての年齢で「6か月後に3回目接種」が可能に。

### ●気が変わって接種したい人の会場確保

市は1・2回目の接種を21年11月末で終了すると発表。21年9月議会で「気が変わってやっぱり打ちたくなかった人が接種できる場所を用意すべきだ」と要望し、12月以降も集団接種会場の一部で1・2回接種を継続。オミクロン株の登場で接種希望者が増え、12月末までの1か月間で1万4460人が1回目を接種しました。

### ●ワクチン副反応の周知を提案

21年11月の委員会で、ワクチン接種の副反応について、保健所は一般的な傾向をきちんと調べ、3回目接種券に同封すべきだと提案し実現。

### ●長期休校中にオンライン授業を実施

20年2月議会で小中学校がコロナで長期休校になったら、学校が小中学生に1人1台貸与するPCを自宅に持ち帰ってオンライン授業の実施を提案。想定していないと渋る教育委員会に「中国では実施している」と喝を入れ、5月からオンライン授業を一部実施、21年9月からは貸与したPCを使いハイブリット授業を実施。

### ●生活困窮世帯への通信費を一部支給

20年6月議会で自宅にネット環境がない小中学生にWiFi機器の無料貸し出しを提案し9月から実施。9月議会で生活困窮世帯への通信費補助を要望し、21年度から月1000円支給。

### ●オンライン授業参加を「出席扱い」に

オンラインを選択した児童生徒が出席停止扱いになるのはおかしいと21年9月議会で追及。「他市の教育長と連携して国に要望すべきだ」と迫り、市長と教育長が文科省を訪問。「オンライン特例授業出席日数」に変わりました。

### ●修学旅行のキャンセル料見直しを要求

キャンセル料の内訳を20年9月議会で公開させたら76%が旅行会社の企画料で、学校により0円から215万円まで様々なことが判明。行き先は小学校が日光、中学校は1校を除き京都・奈良で半世紀変わっておらず、中止・延期で企画料を支払う契約の見直しを要求。

### ●消毒液の「あまりに高い買い物」を暴露

市が放課後児童クラブに配布するために一括購入した消毒液の単価が、保育所での購入単価と比べて1.8倍も高いことを20年9月議会で暴露。市は購入方法を見直しました。

### ●PCR検査の単価が東京都の10倍だと暴露

20年12月議会で高齢者施設でのPCR検査の単価が、東京都の10倍だと暴露。単価を抑えて検査対象者を拡大するよう提案しました。

### ●PCR検査で「正しい唾液の出し方」を伝授

香港の空港で指導された「クルゥア〜」と叫んでから唾液を出す方法を20年12月議会で実演。保健所も「そのように喉の奥にある唾液を採取することが推奨される」と確認。

### ●「幽霊病床」の存在を暴露し改善促す

コロナ患者のために確保したはずなのに、実際には患者を受け入れない「幽霊病床」が市内にも存在していることを21年11月の委員会で追及。補助金の追加や返還請求で確実に患者を受け入れる病床を確保するよう提案しました。

### ●保健所パンクの実情を訴え改善

22年2月議会で「陽性と判明しても保健所から1週間連絡がないという人もいる」と問題視。市は保健所の職員を臨時に40人増員し、HPに「軽症や無症状の人にはメールで連絡し、健康観察はアプリで行う」と、その時点でできることを明記させました。

### ●コロナのおおりで入院・手術延期の改善を

コロナ用の病床を確保しているために急性心不全で緊急入院が必要な人が自宅待機させられた例を22年5月の委員会で紹介。コロナをインフルエンザ並みの感染症5類に見直すよう市が国に要望することを求めました。

### ●合併で廃止された大宮保健所の復活を

22年6月議会で要望。「税金を取り立てる部署は大宮と浦和の2か所あるのに、市民の命を守る保健所は1か所しかないのはおかしい」「大宮のコロナは大宮で対応を」と訴えました。

議員が政務活動費を使って行った海外視察では「アメリカ視察で連日グルメ三昧」「見沼田んぼの活用の参考にするためフランスへ」「大学院のゼミ旅行で英国へ」など、勝手な視察が横行していましたが、それらを1つ1つ徹底批判。13年度以降は政務活動費で海外視察に行く議員はいなくなりました。

### ●政務活動費の領収書をネットで公開

政務活動費の領収書は、平日の日中に浦和の市役所まで行かないと閲覧できず、インターネット公開を求める市民の請願を提出。「領収書を1枚1枚スキャンしたら職員の仕事が増える」という批判に対して、「議員がスキャンしたデータも提出すればいい」と反論。19年度から実現し、自宅のパソコンでいつでも閲覧できるように。

### ●地方議員年金の廃止

廃止を求める市民からの請願を09年6月議会と10年9月議会に提出。請願は葬り去られたものの、地方議員年金は11年6月から廃止に。16年12月議会で自民・公明・民進が議員年金の復活要望決議を提出したことを追及し、「無駄な抵抗は止めるべき」と批判。

### ●議会の開催日数を倍増させる

07年12月議会で、本会議の開催日数が合併当初に比べ半減し、委員会の開催回数は全国平均の半分以下という現状を追及。08年から本会議開催は2倍に、委員会はそれ以上に。

### ●議員の質問時間・回数を増加

一般質問の時間が、旧大宮市と比べて6分の1に激減した現状を批判。08年度から委員会での議案外質疑の時間が2倍に拡大。

### ●正副委員長は規則通り投票で選出を

各政党・会派の「談合」で決められていた委員会人事に抗議し、07年6月の建設水道委員会投票による正副委員長の選出へ。

### ●各会派・議員の採決態度を公開させる

各議員がどの議案に賛成・反対したかは公表されず、「議長の日分量」で可決か否決を決めていました。私は初当選以来、各会派や議員の採決態度を『市政レポート』で自主的に公開し続けた結果、13年6月議会から市議会HPで議案についての賛否が公表に。

### ●市長が提出した議案の内容を永久公開

議会の議事録は永久公開されますが、そこで審議された議案の内容は、市のHPでは5年後に削除されていた。そこで15年9月議会で永久公開するよう提案し、実現。21年2月議会で議案を掲載したHPが複雑でわかりにくいと指摘し、すぐに整理させました。

### ●議員として説明責任を果たす

年に7～8回、自費で『市政レポート』を発行し、全戸配布に加えて北区内各駅や大宮駅東口で駅頭配布。自分が議会で質問したことだけでなく、議会で審議されたすべての議案や請願を掲載し、それぞれに自分や他の議員（政党・会派）が何に賛成して何に反対したのか、議会の全体像がわかるようにジャーナリストの経験を生かして「報道」に務めています。私の「暴言」問題など、自分自身の不祥事でも詳細を掲載し、議員としての説明責任を果たすよう心がけています。



## 密室談合の市議会を、市民に公開された場に

### ●コロナ口実に議会はサボるな！と喝

コロナの感染拡大を理由に、20年6月議会は各会派が一般質問を3日間から1日だけに短縮し、委員会での議案外質問も中止に。私は「コロナ対策で市民から寄せられた様々な声をもとに、市長に質問・提案・追及するのが議員の仕事だ」と猛然と抗議。9月議会以降は通常の開催日数に戻させました。

### ●海外視察の人選・日程を公開の場で審議

海外視察の人選や日程は、議長応接室に各政党・会派の代表が集まって談合のように協議。本会議で承認する際も、傍聴者には参加者リストや日程表は配られませんでした。そこで本会議で海外視察の質疑（質問）や討論（賛否の意見表明）を求める市民の請願を提

出。17年度から公開審議が実現しました。

### ●中国視察で疑惑の「有限公司」を徹底追及

17年9月議会で、自民真政・公明・立憲国民の3人が「上海の公共施設」を視察する案に対し、視察先が有限公司（＝株式会社）で民間企業だとあばき追及。3人は視察先を市立植物園に変更し、「盆栽美術館の参考にした」とお茶を濁しました。

### ●韓国視察に自費で参加

公費で海外視察に行くのは議長・副議長が現地に精通した者だけに限定すべきで、「他にやりたい議員は自費で行くべき」と主張。15年6月の韓国・水原視察では、公費は議長だけに、私は自費で参加しました。

### ●政務活動費使った海外視察を中止させる

# 吉田一郎 プロフィール

アジアを拠点に「自治と独立」を取材し続けた  
国際ジャーナリストが  
「このままでは大宮が危ない」と立ち上がり  
市民として、そして市議として  
さいたま市のあり方に異議を唱える

## 新聞作りに熱中した少年時代

東京・赤羽で生まれ、2歳の時に大宮市東大成町の長山団地に転入。典型的なサラリーマン家庭で育つ。小学校では、クラスの「アイデアマン」。漫画を描くのが趣味で、将来の夢はコメディアンというひょうきん者。小学4年生の時、クラスで新聞係になったのを皮切りに、中学校では新聞委員会、高校では新聞部、大学では新聞学会に所属。「おかしい！」と思ったことを伝えることに夢中になり、いつしかジャーナリストを目指すように。



## 九龍城砦で、住民自治の原点を知る

「植民地って、一体どんなところだろう？」と、当時イギリス領だった香港に留学。家賃の安さに魅かれて住んだのは、「東洋の魔窟」と言われていた九龍城砦で、中国とイギリスの狭間にあって、いかなる国の法律も及ばない真正銘の無法地帯。建築や衛生に関する規制がないから環境は劣悪だったが、住民同士の協力で治安は保たれていた。



## 香港を拠点に国際ジャーナリストとして

香港の新聞社に勤務し、新聞記者や雑誌編集長として、1997年の香港返還を挟んで、自治権の拡大や民主化、「1国2制度」の確立などを報道し続ける。「香港を最もよく知る日本人」として、テレビやラジオにもたびたび出演。



また、アジア各地の地域紛争や独立問題などを取材。『AERA』『SAPIO』などで執筆したり、NHK 海外向け放送のレポーターとしても活躍。民族や宗教の対立に目を向けられがちな紛争も、多くの場合、背景には「自分たちの地域のことは、自分たちで決めたい」「自分たちの地域の富は、その地域で使いたい」という強い思いがあることを知る。

## 住民不在の合併に憤り、市長選に出馬

10年ぶりに帰国してみたら、故郷・大宮は住民投票も行われないうまま、3市合併でさいたま市に。「さいたま新都心への首都機能の移転」をエサに、「平成の大合併」のモデルケースとするための、国策に踊らされた住民不在の合併に憤りを感じて、2001年の市長選に「住民投票で合併解消」を掲げて告示直前に立候補。まったく準備をしないままの市長選出馬で、結果は惨たんたるものだったが、これ以降、さいたま市のあり方に一市民として、異議を唱えることに。

## 住民不在の区名・区割りには許さない！



03年の政令指定都市への移行にあたっての区名の投票では、区名投票の結果（「大宮北区」など）を無視したネーミングに抗議する署名を集めて議会に提出し、超党派修正案として審議されるも否決。

区割りをめぐっては、「旧3市をそのまま3つの区に」という住民投票を求める直接請求の署名運動を行ったが、議会で否決される。

住民の声を無視した議会の現状を変えるべく、03年の市議選に立候補するものの、再び落選。

## 議員報酬の大幅アップにハンストで抗議

「政令指定都市になった」というだけの理由で、04年にさいたま市議会は議員報酬を3割、政務活動費は一挙に7割も増額（合計すると4割アップ）。「合併でトクするのは議員だけか！」と、浦和の市役所前でハンガーストライキ敢行。結局、政務活動費の7割アップは自民・公明・民主・共産などすべての議員が賛成して可決されたが、さいたま市議会のデタラメぶりは、ハンストによって全国に報道されることに。



## 市議として、「命がけ」で発言権を獲得

07年の市議選で、「相川市政と全力で勝負だ！」をスローガンに、5,027票を得て初当選。会派に属さない無所属議員として活動を始めるが、さいたま市議会では地方自治法を無視して、各政党・会派が本会議での無所属議員の発言を禁止していた。

議会で意見を表明すると、演壇から引きずり降ろされたり、出席停止などの処分が繰り返されることに。

そこで議会の現状に抗議して、09年3月に議員をいったん辞職。5月の補欠選挙で「すべての議員が発言できる議会」を掲げ、さいたま市始めて以来の27,045票の記録的得票で復帰当選を果たし、市民の「審判」が下ったことで、本会議の発言権を獲得。

## 地下鉄建設反対を掲げ、市長選に出馬

財政破綻を招く無謀な岩槻への地下鉄建設に、清水市長と議会が一丸となって2017年度の着手をしようとする中で、たった1人反対していた「多勢に無勢」を打破すべく、13年の市長選に出馬し、東武野田線と伊勢崎線の直通運転で岩槻と東京都心をつ結ぶ「吉田プラン」を提案。選挙は力及ばずでも、東武鉄道が「吉田プラン」の実行を発表し、地下鉄建設を延期させる。15年の市議選で議院に復帰。

## 日本で最も積極的に意見を表明する議員

住民の力で得た発言権を活かすべく、議会の審議では「疑問に思ったら必ず追及する」「賛成や反対の理由を表明する」をモットーに活動。昨年度の本会議での発言回数は断トツの48回に達し、清水市政に警鐘を鳴らし続けている。

1963年（昭和38年）11月3日生まれ。59歳。若竹幼稚園、東大成小、植竹中、上尾高校卒。法政大学社会学部卒。早稲田大学大学院修士（国際関係学専攻）。香港の新聞社で『Hong Kong Post』記者、月刊『香港通信』編集長、日刊『香港ビジネスポスト』編集長を経て、07年からさいたま市議。〔無所属5期〕

## ■ 主な著書

- 『香港街伝』徳間書店 1997
- 『香港の秘密』アスキー 1997
- 『中国アナーキー』アスペクト 1998
- 『九龍城探訪 魔窟で暮らす人々』(監修) イーストプレス 2004
- 『国マニア』交通新聞社 2005
- 『世界飛び地大全』社会評論社 2006 角川ソフィア文庫 2014
- 『国境線の謎がわかる本』(監修) 大和書房 2008



消滅した国々 社会評論社 ¥3,080(税込)  
ソ連やユーゴスラビア、南ベトナムのように世界的な注目を集めて消えた国から、ヘレロ、クワクワ、アイレク共和国、ルウェンズルル王国など、日本では知られないまま消えた「泡沫国家」まで、戦後67年間に消滅した世界183か国の歴史、亡国への経緯、現状、最後の大統領や国王のその後などを紹介。誰も書かなかった国際政治や現代史のエピソードが満載の1冊。



国マニア ちくま文庫 ¥748(税込)  
勝手に独立したり、国内に政府がなかったり、領土がなかったり、世界には驚くべき国があります。そんな日本のジョージキでは考えられない52カ国・地域を紹介。「国」とは一体なんなのでしょう？ 真面目なのに笑えます。真面目だから考えさせられます。電車の中で読むのに最適な1冊。翻訳されて韓国でも発売されています。

発行 やっぱり大宮市民の会  
代表 吉田一郎

〒331-0814 さいたま市北区東大成町2-60-4

TEL & FAX 048-651-5733

携帯 080-5654-0038

no\_saitama@hotmail.com

## ■ ボランティアのお願い

ポスティング、チラシ配布、シール貼りなどご協力いただける方はご連絡ください。

## ■ カンパのお願い

吉田一郎の活動は、皆様のご厚意によって支えられています。  
郵便振替口座 00190-9-595032  
(口座名義： やっぱり大宮市民の会)